



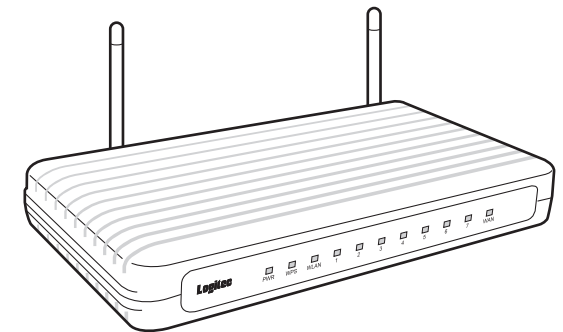
Broadband Router

300Mbps対応ギガビットイーサ 8ポート無線LANルータ

LAN-W300N/G8

User's Manual

このマニュアルは、別冊の「かんたんセットアップガイド」とあわせてお読みください。





●このマニュアルで使われている用語

このマニュアルでは、一部の表記を除いて以下の用語を使用しています。

用語	意味
本製品	無線LANブロードバンドルータ「LAN-W300N/G8」を称して「本製品」と表記しています。
11n/11g/11b	IEEE802.11n規格を「11n」、IEEE802.11g規格を「11g」、IEEE802.11b規格を「11b」と省略して表記している場合があります。
無線ルータ	無線LANブロードバンドルータを略して「無線ルータ」と表記しています。
無線AP	「無線LANアクセスポイント」のことを略して「無線AP」と表記しています。
無線親機	無線ルータ、無線APを総称して「無線親機」と表記しています。
無線子機	無線LAN機能を内蔵したパソコン、無線アダプタを取り付けたパソコン、無線コンバータを接続した機器などを総称して「無線子機」と表記しています。また、無線アダプタ、無線コンバータそのものを「無線子機」として表記している場合があります。
有線クライアント	有線LAN機能または有線LANアダプタを搭載したパソコンなどを「有線クライアント」と表記しています。

●このマニュアルで使われている記号

記号	意味
 注意	作業上および操作上で特に注意していただきたいことを説明しています。この注意事項を守らないと、けがや故障、火災などの原因になることがあります。注意してください。
	説明の補足事項や知っておくと便利なことを説明しています。

ご注意

- 本製品の仕様および価格は、製品の改良等により予告なしに変更する場合があります。
- 本製品に付随するドライバ、ソフトウェア等を逆アセンブル、逆コンパイルまたはその他リバースエンジニアリングすること、弊社に無断でホームページ、FTPサイトに登録するなどの行為を禁止させていただきます。
- このマニュアルの著作権は、ロジテック株式会社が所有しています。
- このマニュアルの内容の一部または全部を無断で複製/転載することを禁止させていただきます。
- このマニュアルの内容に関しては、製品の改良のため予告なしに変更する場合があります。
- このマニュアルの内容に関しては、万全を期しておりますが、万一ご不審な点がございましたら、弊社テクニカル・サポートまでご連絡ください。
- 本製品の日本国外での使用は禁じられています。ご利用いただけません。日本国外での使用による結果について弊社は、一切の責任を負いません。また本製品について海外での(海外からの)保守、サポートは行っておりません。
- 本製品を使用した結果によるお客様のデータの消失、破損など他への影響につきましては、上記にかかわらず責任は負いかねますのでご了承ください。重要なデータについてはあらかじめバックアップするようにお願いいたします。
- Microsoft、Windows Vista、Windowsは米国Microsoft Corporationの登録商標です。そのほか、このマニュアルに掲載されている商品名/社名などは、一般に各社の商標ならびに登録商標です。本文中における®およびTMは省略させていただきます。

300Mbps対応ギガビットイーサ 8ポート無線LANルータ

LAN-W300N/G8

User's Manual

ユーザーズマニュアル



はじめに

この度は、ロジテックの300Mbps対応ギガビットイーサ 8ポート無線LANルータをお買い上げいただき誠にありがとうございます。このマニュアルには本製品を使用するにあたっての手順や設定方法が説明されています。また、お客様が本製品を安全に扱っていただくための注意事項が記載されています。導入作業を始める前に、必ずこのマニュアルをお読みになり、安全に導入作業をおこなって製品を使用するようにしてください。


このマニュアルは、製品の導入後も大切に保管しておいてください。


安全にお使いいただくために


けがや故障、火災などを防ぐために、ここで説明している注意事項を必ずお読みください。


 警告	<p>この表示の注意事項を守らないと、火災・感電などによる死亡や大けがなど人身事故の原因になります。</p>
 注意	<p>この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり、他の機器に損害を与えたりすることがあります。</p>

警告

- 


本製品の分解、改造、修理をご自分でおこなわないでください。
火災や感電、故障の原因になります。また、故障時の保証の対象外となります。
- 

本製品から発煙や異臭がしたときは、直ちに使用を中止したうえで電源を切り、ACコンセントから電源プラグを抜いてください。そのあと、ご購入店もしくは当社テクニカル・サポートまでご連絡ください。
そのまま使用すると、火災や感電、故障の原因になります。
- 


本製品に水などの液体や異物が入った場合は、直ちに使用を中止したうえで電源を切り、ACコンセントから電源プラグを抜いてください。そのあと、ご購入店もしくは当社テクニカル・サポートまでご連絡ください。
そのまま使用すると、火災や感電、故障の原因になります。
- 

本製品を、水を使う場所や湿気の多いところで使用しないでください。
火災や感電、故障の原因になります。

注意

- 

本製品を次のようなところで使用しないでください。

 - ・高温または多湿なところ、結露を起こすようなところ
 - ・直射日光のあたるところ
 - ・平坦でないところ、土台が安定していないところ、振動の発生するところ
 - ・静電気の発生するところ、火気の周辺
- 

長期間本製品を使用しないときは、電源プラグを抜いておいてください。
故障の原因になります。

無線LANをご使用になるにあたってのご注意

- 無線LANは無線によりデータを送受信するため盗聴や不正なアクセスを受ける恐れがあります。無線LANをご使用になるにあたってはその危険性を十分に理解したうえで、データの安全を確保するためセキュリティ設定をおこなってください。また、個人データなどの重要な情報は有線LANを使うこともセキュリティ対策として重要な手段です。
- 本製品は電波法に基づき、特定無線設備の認証を受けておりますので免許を申請する必要はありません。ただし、以下のことは絶対におこなわないようにお願いします。

 - ・本製品を分解したり、改造すること
 - ・本製品の背面に貼り付けてある認証ラベルをはがしたり、改ざん等の行為をすること
 - ・本製品を日本国外で使用すること

これらのことに違反しますと法律により罰せられることがあります。
- 心臓ペースメーカーを使用している人の近く、医療機器の近くなどで本製品を含む無線LANシステムをご使用にならないでください。心臓ペースメーカーや医療機器に影響を与え、最悪の場合、生命に危険を及ぼす恐れがあります。
- 電子レンジの近くで本製品を使用すると無線LANの通信に影響を及ぼすことがあります。

もくじ

安全にお使いいただくために	4
---------------	---

Chapter 1 概要編 7

1 製品の保証について	8
2 サポートサービスについて	9
3 本製品の概要について	10
本製品の特長	10
本製品の動作環境	13
4 各部の名称とはたらき	14
5 設定ユーティリティについて	16
6 セットアップを始める前に	17
接続事業者との契約状況を確認する	17
ブロードバンドモデムのタイプについて	18
設定に必要なプロバイダ情報を用意する	18

Chapter 2 導入編 21

1 セットアップの流れ	22
2 本製品を接続する	24
本製品を接続する	24
3 ウィザードを使ったセットアップ	27
セットアップツールについて	27
設定ユーティリティを表示する	28
インターネット接続ウィザードでセットアップする	30
4 無線LANで接続する	33
はじめにご確認ください	33
WPS ボタンを使って接続する	34
PINコードを入力して接続する	36
手動設定で接続する	38

Chapter 3 詳細設定編 41

1 設定ユーティリティ画面について	42
設定ユーティリティ画面を表示する	42
設定ユーティリティ画面の内容	43
2 インターネット接続ウィザード	44
3 無線設定	45
本製品で使用可能な通信モードについて	45
無線LANの基本設定	49
上級者向け設定画面	65
アクセスコントロール画面	66
WDS設定画面	68
サイトサーベイ画面	71
WPS機能の設定	72

4 セキュリティを設定する(無線の暗号化)	73
WEPの設定	74
WPA-PSK/WPA2-PSKの設定	78
5 有線設定	82
LAN側設定画面	82
固定DHCP設定画面	83
WAN側設定画面	85
6 ファイアウォール設定	90
ポートフィルタ画面	90
IPアドレスフィルタ画面	92
MACアドレスフィルタ画面	94
ポートフォワーディング画面	96
URLフィルタ画面	98
IPv6ブリッジ画面	100
DMZ画面	101
7 QoS	102
QoS画面	102
8 管理ツール	105
機器のステータス画面	105
統計画面	107
DDNS設定画面	108
ログ画面	110
ファームウェア更新画面	111
設定保存/読み込み画面	112
パスワード設定画面	114
9 APモードを使用する(動作モード選択)	115
10 無線スケジュール機能を使用する	118

Appendix 付録編 119

1 フレッツ・スクウェア使用時の設定	120
2 こんなときは	122
3 パソコンのIPアドレスの確認方法	125
パソコンのIPアドレスを表示する	125
工場出荷時での表示結果	126
4 基本仕様	127

Chapter 1

概要編

1 製品の保証について

製品の保証とサービス

本製品には保証書が付いています。内容をお確かめの上、大切に保管してください。

●保証期間

保証期間はお買い上げの日より1年間です。保証期間を過ぎた修理は有料になります。詳細については保証書をご覧ください。保証期間中のサービスについてのご相談は、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

●保証範囲

次のような場合は、弊社は保証の責任を負いかねますのでご注意ください。

- 弊社の責任によらない製品の破損、または改造による故障
- 本製品をお使いになって生じたデータの消失、または破損
- 本製品をお使いになって生じたいかなる結果および、直接的、間接的なシステム、機器およびその他の異常

詳しい保証規定につきましては、保証書に記載された保証規定をお確かめください。

●その他のご質問などに関して

P9「2. サポートサービスについて」をお読みください。

2 サポートサービスについて

よくあるお問い合わせ、対応情報、マニュアル、修理依頼書、付属品購入窓口などをインターネットでご案内しております。ご利用が可能であれば、まずご確認ください。

サポートページ 6409.jp ([http://](http://6409.jp)は必要ありません)

ロジテック・テクニカルサポート(ナビダイヤル)

TEL : 0570-050-060

受付時間：月曜日～土曜日 10:00～19:00

(祝日営業)※ただし、夏期、年末年始の特定休業日は除きます。

本製品は、日本国内仕様です。国外での使用に関しては弊社ではいかなる責任も負いかねます。また国外での使用、国外からの問合せにはサポートを行っておりません。
This product is for domestic use only. No technical support is available in foreign languages other than Japanese.

テクニカルサポートにお電話される前に

お問合せの前に以下の内容をご用意ください。

- 弊社製品の型番
 - インターネットに関するプロバイダ契約の書類
 - ご質問内容(症状、やりたいこと、お困りのこと)
- ※可能な限り、電話しながら操作可能な状態でご連絡ください。

3 本製品の概要について

本製品の特長

●IEEE802.11n/g/bに準拠、ギガビット対応の8ポート無線LANルータ

11n規格対応、最大300Mbps(理論値)の無線通信に加え、ギガビット通信に対応した7ポートのLAN側コネクタ及び、1ポートのWANコネクタを搭載しています。WAN/LANポートが、従来の10BASE-T/100BASE-TXから超高速のギガに対応することにより、超高速インターネットサービスに最適です。

また、ゲーム機・ネットワーク対応テレビ/レコーダなど、パソコン以外のネットワーク対応機器が増え、LANのポート数が足りない状況でも、余裕で機器類の接続ができます。

●ハイパワーアンテナ搭載で無線接続にも強い！

電波が隅々まで届くよう、無線LAN用に外部アンテナを搭載しました。これにより、障害物の影響を軽減し、指向性・利得を向上することに成功しました。

●背面のマグネットで、スチール面に固定可能。さらに内蔵電源採用ですっきり設置！

コンパクトな横置きタイプです。本体の底面にはマグネットを装備し、スチール面にしっかりと固定できます。

また、ACアダプタではなく電源内蔵タイプなので、コンセント周りがスッキリします。

●省電力機能「ロジエコ」を搭載し、節電対策も万全

接続していないポート、リンクしていないポートを自動的に判別し、電力供給量を抑えるほか、接続機器までのLANケーブルの長さによって電力供給量を調節する省電力タイプの無線ルータです。使用者が意識することなく、簡単に節電を実践することができます。

●「かんたんセットアップツール」で、インターネット接続がさらに簡単に

無線アダプタの設定からインターネットの接続までをひとつのセットアップ画面で進めることができる「かんたんセットアップツール」をCD-ROMに収録しています。DHCP接続やNTTフレッツサービスなどによるPPPoE接続など、インターネット接続回線の種別を自動的にチェックし、適切な接続方法が自動的に設定される「おまかせ接続」です。

回線種別をあらかじめ調べて、手動で選択する必要はありません。

●Android専用アプリ「かんたん無線君」をご用意

無線親機に接続するためのAndroid端末専用の設定アプリ「かんたん無線君」をご用意(Androidマーケットからダウンロードする必要があります)。

Android端末専用のアプリを使用することで、簡単にAndroid搭載スマートフォン/タブレットとWi-Fi接続することができます。

※iPhoneなど、Androidを搭載していない端末には対応していません。

●ボタンひとつで設定完了、WPS機能に対応した無線LAN設定方式を採用

面倒な暗号化の設定を意識することなく、簡単に無線LAN接続を設定できる「WPS」機能に対応しています。本製品背面のWPSボタンまたは設定ユーティリティ画面上のWPS実行ボタンを押すことで、セキュリティ設定済みの無線LAN接続を簡単に完了できます。

●消費電力を抑えることができる「無線スケジュール機能」を装備

ご家庭なら平日の昼間、オフィスなら夜間や休日は、無線ルータをあまり使用する機会がない時間帯があります。「無線スケジュール機能」を使用すると、このような時間帯に無線LAN機能をオフにして、本製品の消費電力を抑えることができます。スケジュールは、曜日単位、5分刻みで設定できます。

●ルータモードからAPモードへ、ソフトウェアで切り替え可能

ブロードバンドモデムにルータ機能が内蔵されている場合でも、本製品を接続してそのままでも使えますが、AP(無線アクセスポイント)モードに変更したい方のために、本製品のルータ機能をオフにできる「APモード」を装備しています。Webブラウザを使って設定ユーティリティに接続し、「APモード」に変更するだけで、簡単にAPモードに切り替えることができます。

●IPv6 Bridge 機能を搭載

さまざまなアプリケーションや音声映像を楽しめるIPv6サービスを利用できるように、「IPv6 Bridge」機能を搭載しています。設定をオフにすることもできます。

●各種無線セキュリティ機能に対応

新しい規格であるWPA-PSK/WPA2-PSKに対応しています。WPAでは、暗号キーを一定時間ごとに自動的に変更しますので、外部からの不正解読が困難になっています。また、発信するSSIDを無線クライアント側に表示されないようにするSSIDステルス機能、無線クライアントのMACアドレスを指定してアクセスを制限するアクセスコントロール機能などを搭載しています。

● Web ブラウザベースの設定ユーティリティを搭載

本製品の設定は、クライアントパソコンの Web ブラウザ上から、本体に内蔵された Web ベースの設定ユーティリティを起動しておこないます。Web ブラウザからの解りやすいメニューで操作できます。インターネット経由でのアクセスも可能です。

●特定の通信の帯域幅を確保できる「QoS」機能に対応

全体の帯域のうち、特定のサービスに一定の帯域を確保できる「QoS」機能に対応しています。この機能を使うことで、ストリーミング映像を楽しんでいるときに、他のサービスに帯域を取られて、映像が止まるというような心配がなくなります。複数のサービスに個別に帯域幅を割り当てることができます。

●バーチャルサーバ機能を搭載

ポート転送（ポートフォワーディング機能）を搭載しており、本製品に接続したパソコンを「バーチャルサーバ」としてインターネット経由で安全に公開できます。PPPoE 接続など、IP アドレスが動的に変化する環境でも、ダイナミック DNS（クリアネット）サーバへの接続機能を備えていますので、IP アドレスの変更なく運用が可能です。

●UPnPに対応

UPnP (Universal Plug and Play) に対応しています。Windows Messenger などの UPnP 対応ソフトが特別な設定をせずに利用可能なほか、UPnP 対応ネットワーク機器との組み合わせで本製品を自動的に認識、設定できます。ネットワークゲームを安心して利用できる DMZ 機能も備えています。

●その他多彩なルータ機能を装備

- ・「DHCP サーバ機能」を搭載し、パソコン側の IP アドレス設定などが不要
- ・「URL フィルタリング」「MAC アドレスフィルタリング」などのフィルタリング機能を搭載
- ・簡易サーバの設置に便利な「DMZ」「DDNS」を搭載。DDNS は、ロジテックの無料 DDNS サーバ Clear-Net を利用可能
- ・ファームウェアを簡単にバージョンアップ可能
- ・設定内容およびアクセスログの保存が可能

●EU RoHS 指令に準拠

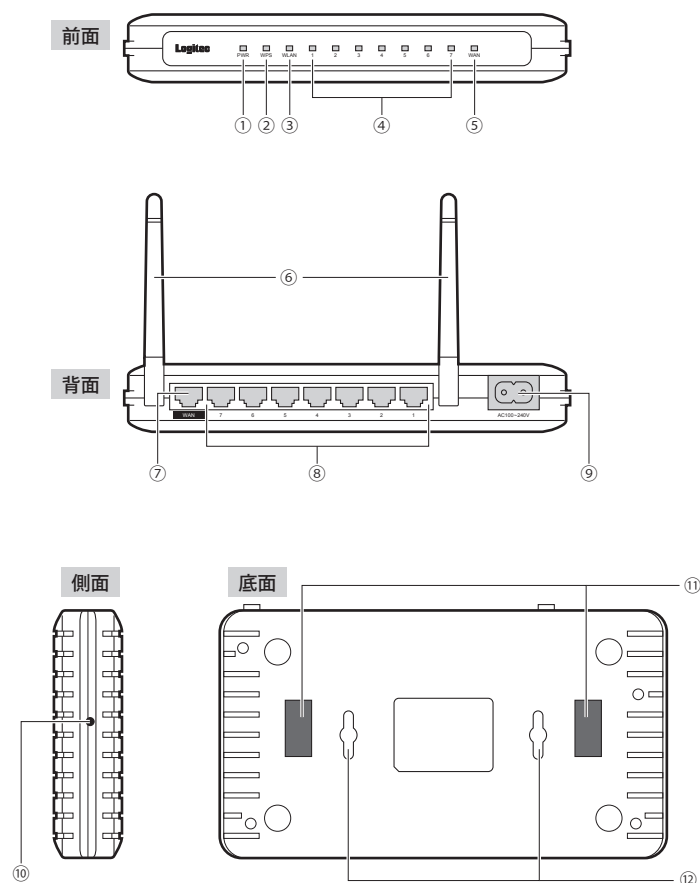
EU の「RoHS 指令（電器・電子機器に対する特定有害物質の使用制限）」に準拠した環境にやさしい製品となっています。

本製品の動作環境

弊社では以下の環境のみサポートしています。

対応機種および OS	Windows 7/Vista/XP/2000 を搭載する Windows マシン Mac OS X (10.6/10.5/10.4) をインストールした Intel 製 CPU を搭載した Mac
対応ブラウザ (Web 設定ユーティリティ)	Internet Explorer 5.5 以降

4 各部の名称とはたらき



①	PWR (パワー)ランプ (緑色) [*]	点灯：本製品の電源が入った状態です。 消灯：本製品の電源が切れた状態です。
②	WPSランプ (赤色) [*]	点滅：WPS/Reset ボタンを押してWPS機能を実行している状態です。 約2分間、1秒間隔で点滅します。 消灯：WPS機能を実行していない状態です。
③	WLANランプ	点滅 (青色)：無線LAN機能を使用中です。
④	LANランプ1～7 (緑色) [*]	点滅：パソコンやネットワーク機器とのリンクが確立し、データ転送中です。 消灯：未接続の状態です。
⑤	WANランプ (緑色) [*]	点滅：WAN側とのリンクが確立し、インターネットとの間でデータ転送中です。 消灯：未接続の状態です。
⑥	外部アンテナ	電波をより強く、安定して送受信するためのアンテナです。 電波の感度を上げるために角度を調整できます。稼働範囲は垂直方向に90度、水平方向に180度です。
⑦	WANポート	ブロードバンドモデムなどWAN側機器からのケーブルを接続します。
⑧	LANポート1～7	パソコンやネットワーク機器を、有線LANで本製品に接続するためのポートです。
⑨	電源ジャック (AC100-240V)	本製品に付属の電源ケーブルを接続します。本製品に付属以外の電源ケーブルを接続しないようにしてください。
⑩	WPS/Reset (リセット) ボタン	2秒間押すとWPSランプが点滅し、WPS機能が実行されます。 5秒間以上押して離すと、WLANランプが点灯し、設定値の初期化を開始します (工場出荷時の状態に戻ります)。 WPSランプが点灯している間は、電源を切らないでください。
⑪	マグネット	スチール面にワンタッチで固定するためのマグネットです。
⑫	ねじ穴	本製品を壁面などに設置するためのねじ穴です。

^{*}ランプの状態は、いずれも通常モードでの状態を表します。

●壁面などへのネジ止めで固定する場合

本製品は壁面などに設置できるように、底面に2か所のねじ穴を用意しています。固定には直径 (呼び径) 6～7mmのネジ2本が必要です。設置面の素材および構造をお確かめになり、十分な強度を確保したうえで、本製品を取り付けてください。また、本製品への電源供給のために設置場所近くにACコンセントが必要です。

5 設定ユーティリティについて

本製品の各種設定をするために、Webブラウザから利用できる設定ユーティリティがあります。ここでは設定ユーティリティのメニュー項目の構成について説明します。各メニュー項目の詳しい内容や設定方法については、該当ページをお読みください。



●設定ユーティリティを使用するには

設定ユーティリティをパソコンのWebブラウザで表示するには、本製品とパソコンを有線LANで接続する必要があります。

●設定ユーティリティの表示方法

P42「設定ユーティリティ画面を表示する」をお読みください。



メニュー項目	内容
インターネット接続ウィザード	インターネット回線種別を選択するだけで、簡単にインターネットへの接続設定を完了できるウィザードです。(→P44)
無線設定	無線LANに関する、さまざまな設定をするメニューです。基本設定(→P49)、上級者向け設定(→P65)、セキュリティ設定(→P73)、アクセスコントロール(→P66)、WDS設定(→P68)、サイトサーベイ(→P71)、WPS設定(→P72)、無線スケジュール設定(→P118)があります。
有線設定	有線LAN、WANの設定をします。LAN側設定(→P82)、WAN側設定(→P85)があります。
ファイアウォール設定	本製品にファイアウォール機能を設定できます。ポートフィルタ(→P90)、IPアドレスフィルタ(→P92)、MACアドレスフィルタ(→P94)、ポート転送(→P96)、URLブロック(→P98)、IPv6ブリッジ(→P100)、DMZ(→P101)があります。
QoS	全体の帯域のうち、特定のサービスに一定の帯域を確保できる「QoS」機能を設定できます(→P102)。
管理ツール	本製品を管理するためのメニューです。機器のステータス(→P105)、統計(→P107)、DDNS(→P108)、ログ(→P110)、ファームウェア更新(→P111)、設定保存/読込(→P112)、パスワード設定(→P114)があります。

6 セットアップを始める前に

本製品のセットアップ作業を始める前に、以下について確認します。

接続事業者との契約状況を確認する

次の内容を確認してください。

①回線事業者/プロバイダと契約は完了していますか？

回線事業者やプロバイダとの契約を完了しておく必要があります。また、フレッツサービスの場合はNTTとのお契約とは別にプロバイダとの契約が必要です。

②モデムなどの機器は準備できていますか？

本製品でインターネットを楽しむためには、ADSL/CATV/光ファイバーなどのブロードバンドモデムと本製品を接続する必要があります。モデムを別途購入されるように契約している場合は、対応モデムをご用意いただく必要があります。

③回線工事は完了していますか？

回線事業者/プロバイダとの契約に加え、屋内までの配線工事とモデムの準備が完了している必要があります。すでに開通日を過ぎていることを確認してください。

④パソコン側の必要な機器は準備できていますか？

本製品の設定および本製品と接続するネットワーク機器には、LANアダプタ(イーサネットポート)が搭載されている必要があります。パソコン本体などに内蔵されていない場合は、別途LANアダプタを準備してください。また、無線で接続する場合は、IEEE802.11n/11g/11bいずれかの無線LAN機能が搭載されている必要があります。パソコン本体などに無線LAN機能が内蔵されていない場合は、別途無線子機を準備してください。各機器のセットアップ方法については、それぞれのマニュアルをお読みください。

ブロードバンドモデムのタイプについて

本製品は、ルータ機能に無線LAN機能を搭載した無線LANルータです。現在、プロバイダから提供されるブロードバンドモデムには、すでにルータ機能が内蔵されている製品があります。

ルータ機能内蔵のブロードバンドモデムに本製品を接続する場合でも、本製品のウィザード機能を使用することで、適切な状態でインターネットに接続できます。

ただし、ブロードバンドモデム内蔵のルータ機能を使用したい場合や、本製品をAPモードで使用したほうが、より良い性能を発揮できる場合があります。このような場合は、P115「9.APモードを使用する(動作モード選択)」をお読みになり、本製品を「APモード」に切り替えて使用してください。

設定に必要なプロバイダ情報を用意する

本製品のウィザード機能は、ご使用になるインターネット回線の種別を自動的に判別しますので、一般的なインターネットサービスをご使用の場合は、あらかじめ回線の種別などを調べておく必要はありません。

ただし、NTTフレッツサービスなどPPPoE接続を使用している場合は、プロバイダから提供されるユーザーIDとパスワードが必要になることがあります。また、固定IPサービスなど特別なインターネットサービスをご利用の場合は、あらかじめ必要な情報をご用意ください。



●APモードでご使用の場合

ブロードバンドモデムに搭載されたルータ機能を使用しているため、本製品をAP(アクセスポイント)モードで利用する場合は、Chapter2「4.無線LANで接続する」(→P33)をお読みください。

●プロバイダの情報について

ご契約のプロバイダによっては、ここに説明した内容と異なる場合もあります。プロバイダ側の設定資料を参考に、本製品のインターネット接続の設定をしてください。

A PPPoE 接続方式の場合

NTTフレッツサービスなど「PPPoE接続」でインターネットに接続するプロバイダの場合は、ユーザーIDとパスワードが記載された資料がお手元に届いているはずですが、記入欄にメモしてください。

項目	記入欄
接続方式	PPPoE
認証ID(ユーザ名)【接続ID】	
認証パスワード【接続パスワード】	

※プロバイダによって認証ID、認証パスワードの表記が異なることがあります。ユーザーIDに「@」が入っている場合は、プロバイダから提供された「ユーザー名」の後ろに、「@」と「プロバイダ識別子」を入力する必要があります。また、PPPoE接続でも、認証ID、認証パスワードが記述されておらず、入力が必要な場合があります。



フレッツ光プレミアムなど、別途ルータ機能が用意されている場合

プロバイダから提供されている「CTU」などの機器に、ユーザーID、パスワードを設定しますので、本製品側での設定は不要です。

B DHCP 接続方式の場合

DHCP接続を使用している場合は、自動的にインターネットへの接続を開始します。本製品のウィザードを使用すれば、インターネット回線種別を意識したり、設定作業をおこなうことなく自動的に接続します。

C プロバイダから固定IPアドレスが提供されている固定IP方式の場合

インターネット側のIPアドレス(グローバルIPアドレス)が固定で割り当てられるサービスです。次の内容をお調べのうえ、記入欄にメモしてください。

項目	記入欄
WAN側IPアドレス※1	
WAN側サブネットマスク	
WAN側ゲートウェイ	
DNSサーバアドレス※2	プライマリDNS
	セカンダリDNS

※1 グローバルIPアドレスです。 ※2 指示がある場合にメモしてください。

Chapter 2

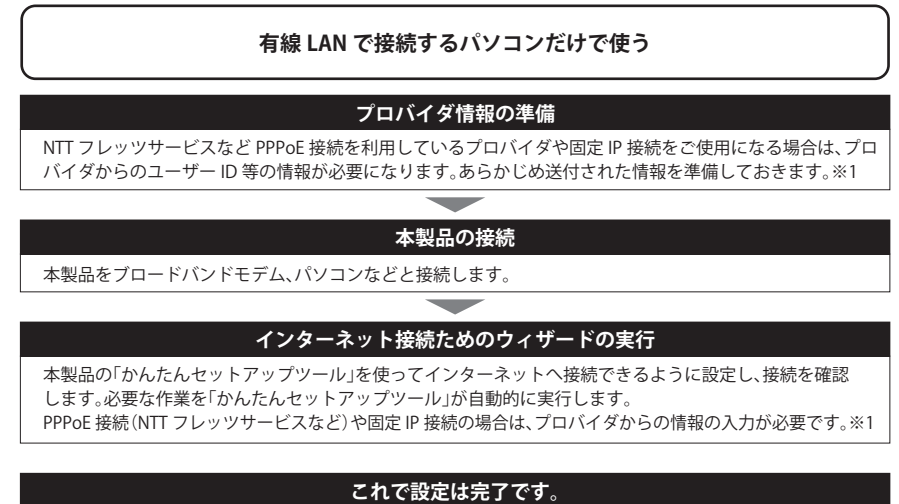
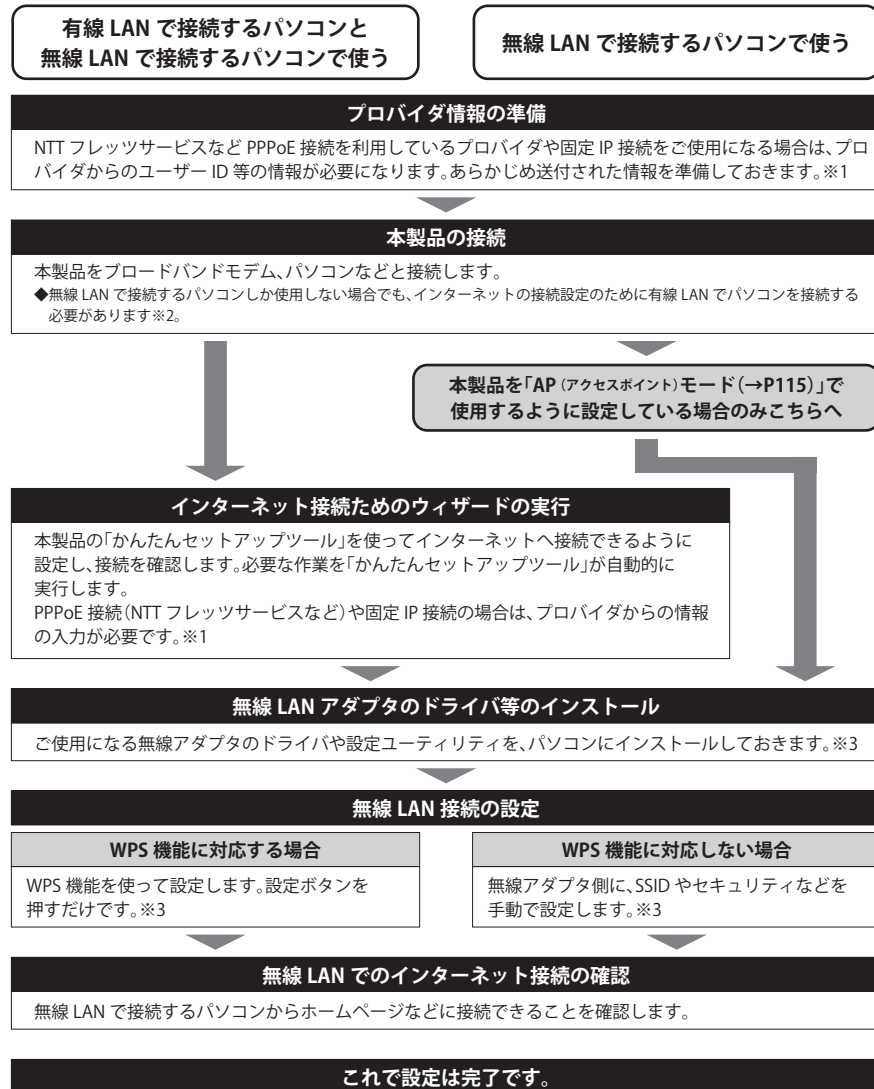
.....

導入編

本製品の導入方法について

本製品をモデムなどつなぐ手順や、インターネットに接続する手順については、本製品に添付の別紙「かんたんセットアップガイド」などに、わかりやすい説明があります。「かんたんセットアップガイド」の説明書が見つからない場合は、ロジテック ホームページからもダウンロードできます。

1 セットアップの流れ



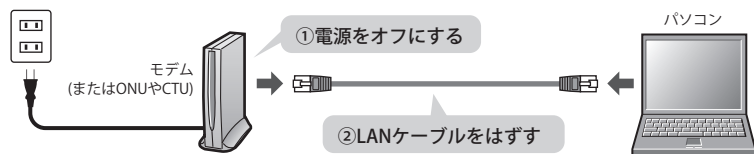
- ※1 プロバイダから提供されている「CTU」などの機器に、ユーザーID、パスワードを設定しますので、本製品側での設定は不要です。
- ※2 無線 LAN だけでご使用になる場合も、本製品の設定ユーティリティに接続するために有線 LAN のパソコンをご用意ください。
- ※3 無線子機側の設定については、無線子機の説明書をお読みください。

2 本製品を接続する

本製品をブロードバンドモデムなどと接続します。

本製品を接続する

1 すでにインターネットをご利用の場合は、以下の作業をします。



- 1 すでにご使用のモデム、ONU (回線終端装置)、CTU (加入者網終端装置) のいずれかがある場合、パソコンと接続したLANケーブルをはずします。
- 2 モデム (またはONUやCTU) の電源を切り、LANケーブルを抜いた状態で、1時間以上そのまま置いておきます。
・モデム等に電源スイッチがない場合は、ACプラグを抜きます。



注意

モデムの電源をいったん切らないと、現在記憶されている接続情報がそのまま残り、本製品を接続したあとの新しい接続情報に更新されず、インターネットへの接続に失敗する恐れがあります。

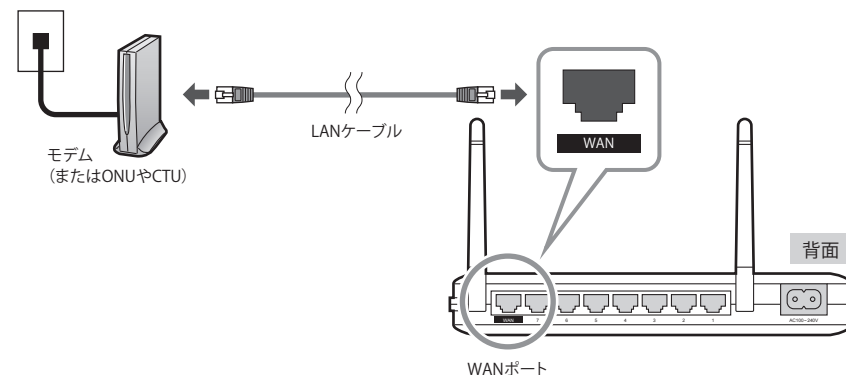
2 本製品を「AP (アクセスポイント) モード」で使用する場合は、P115 「9.APモードを使用する (動作モード選択)」を参考に、「APモード」に変更します。



APモードを使用する

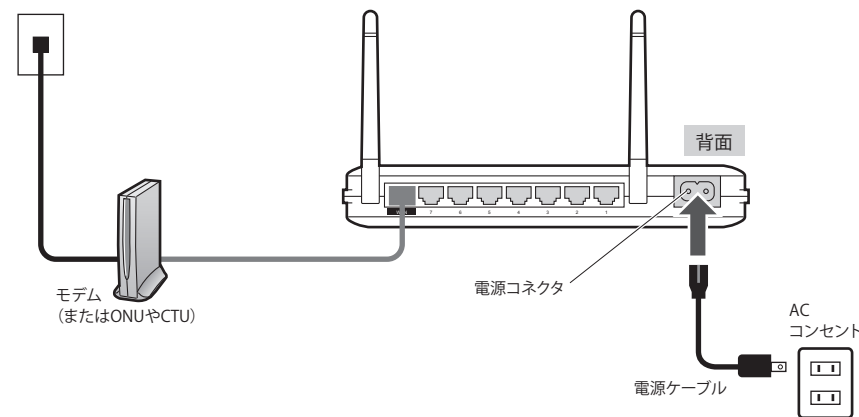
ブロードバンドモデム内蔵のルータ機能を使用したい場合や、本製品をAPモードで使ったほうが、より良い性能を発揮できる場合があります。このような場合に「APモード」を使用してください。

3 モデム (またはONUやCTU) のLANポートと本製品のWANポートを、付属のLANケーブルでつなぎます。

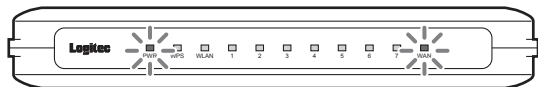


4 モデム (またはONUやCTU) の電源をオンにします。

5 付属の電源ケーブルを本製品と接続し、プラグをACコンセントに接続します。



6 モデム(またはONUやCTU)と、本製品の電源がオンになっていることを確認します。



• 本製品の場合、PWR ランプ(緑色)とWAN ランプ(緑色)が点灯します。

※手順 **5** のあと、ランプが点灯するまで40秒程度かかります。

7 パソコンと本製品のLANポート(7ポートのいずれか)をLANケーブルで接続します。

8 次ページ「3. かんたんセットアップツールを使う」へ進みます。



AP (アクセスポイント) モードに切り替えている場合

インターネット接続に関する設定は、ブロードバンドモデムのルータ機能で設定します。ブロードバンドモデムに付属の説明書をお読みになり、ブロードバンドモデム側の設定を済ませてから、P33「4.無線LANで接続する」へ進みます。

3 ウィザードを使ったセットアップ

セットアップツールについて

本製品は、付属のCD-ROMの「かんたんセットアップツール」を使うことで、無線子機(無線アダプタ)のドライバのインストールや本製品との暗号化設定、およびインターネットへの接続設定が可能です。

また、本製品にパソコンからWebブラウザでアクセスすることで、Webブラウザ版の設定ユーティリティにある「インターネット接続ウィザード」を使って、インターネットへの接続設定を自動でおこなうことができます。無線子機(無線アダプタ)との設定は、WPS機能を使って自動接続ができます。

ここでは次ページより、「インターネット接続ウィザード」を使って、インターネットへ接続する方法を説明しています。無線子機からの無線接続については、P33「4.無線LANで接続する」で説明しています。



CD-ROM版「かんたんセットアップツール」をお使いになる場合

「かんたんセットアップツール」を使ってセットアップする場合は、本製品に添付された別紙「かんたんセットアップガイド[導入編]」をお読みください。



Windows版：かんたんセットアップツール

設定ユーティリティを表示する

本製品の設定ユーティリティは、パソコンからWebブラウザを使って表示します。



パソコンはIPアドレスが自動取得になっている必要があります

このマニュアルでは、本製品のDHCPサーバ機能により、パソコンがIPアドレスを自動取得することを前提に説明しています。パソコンに固定のIPアドレスを設定している場合は、パソコンのIPアドレスを変更しなければならないことがあります。

本製品のIPアドレス(初期値) = 192.168.2.1

1 ブロードバンドモデムと本製品の電源が入っていることを確認してから、設定用のパソコンを起動します。

- 順序が逆の場合、パソコン側がIPアドレスを正常に取得できず、設定画面にアクセスできないことがあります。

2 Internet ExplorerなどのWebブラウザを起動します。

3 Webブラウザの[アドレス]欄に、キーボードから「http://192.168.2.1」と入力し、キーボードの[Enter]キーを押します。



- 認証画面が表示されます。

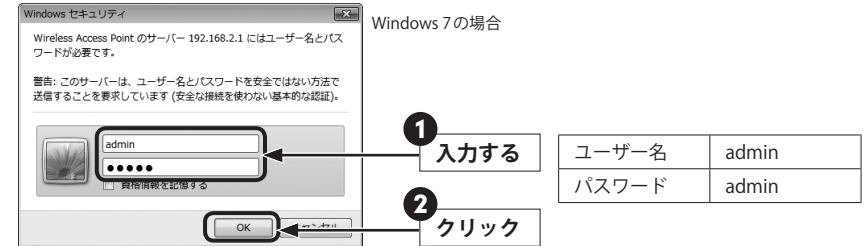


認証画面が表示されない場合

以下の順序で確認してみてください。

- ① 本製品の電源が入っているか、LANケーブルの接続は正しいかを確認してください。
- ② いったんパソコンを終了し、本製品の電源を入れて3分以上たってからパソコンの電源を入れてください。
- ③ 接続しているパソコンのIPアドレスを確認してください(→P125「3.パソコンのIPアドレスの確認方法」)。

4 本製品のユーザー名とパスワードを入力し、OKをクリックします。



- 初期値は表のとおりです。半角英数字の小文字で入力します。
- 本製品の設定ユーティリティが表示されます。
- 次ページの「かんたんセットアップツールでセットアップする」へ進みます。



不特定多数の人が利用するような環境では、第三者に設定を変更されないように、パスワードの変更をお勧めします(→P114「パスワード設定画面」)。

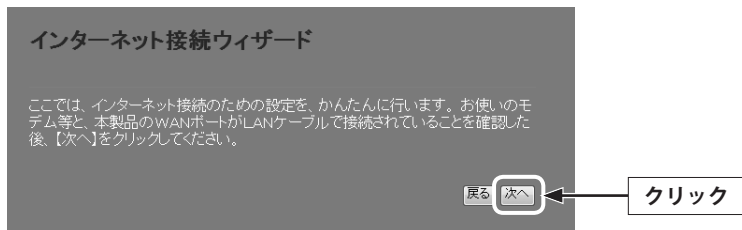
インターネット接続ウィザードでセットアップする

「インターネット接続ウィザード」を使って、セットアップする手順を説明します。

1 インターネット接続ウィザードのトップ画面で、「次へ」をクリックします。



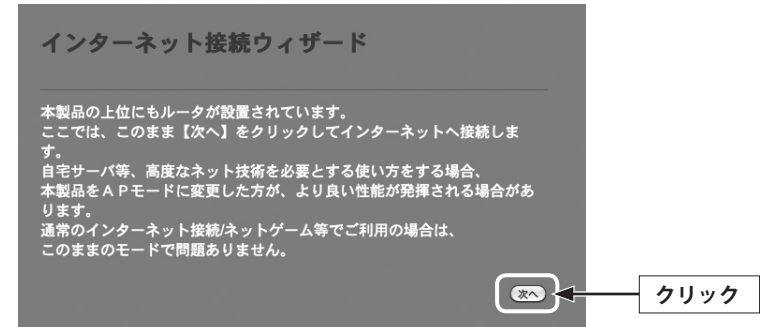
2 「次へ」をクリックします。



- 「インターネット回線種別を自動識別中です。」と表示されます。

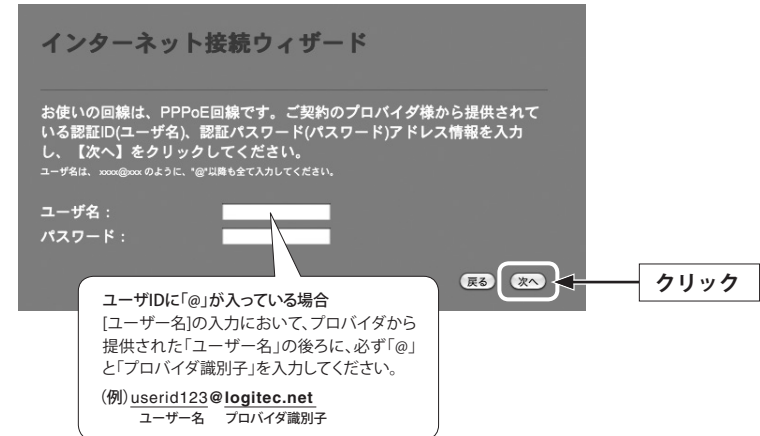
3 インターネット回線の種類にあわせて画面が表示されます。

■「本製品の上位にもルータが設置されています。」と表示された場合



- そのまま「次へ」をクリックします。

■ユーザーIDとパスワードを入力する画面が表示された場合



- プロバイダより提供された情報にある「ユーザーID」と「パスワード」を入力します。
- 「次へ」をクリックします。

※ご利用の環境によって、設定画面の内容は多少異なる場合があります。

■固定IPアドレスの情報を入力する画面が表示された場合

お使いの回線は、固定IP回線です。ご契約のプロバイダ様から提供されている、IPアドレス情報を入力し、『次へ』をクリックしてください。
もし違う回線である場合は、配線が間違っている可能性があります。『戻る』をクリックし、もう一度やり直してください。

プロバイダから指定されたIPアドレス:	172.1.1.1
サブネットマスク:	255.255.0.0
DNSアドレス:	
プロバイダから指定されたデフォルトゲートウェイアドレス:	172.1.1.254

(戻る) (次へ)

クリック

- プロバイダより提供された情報を入力します。
- 「次へ」をクリックします。

4 インターネットに正常に接続できると、接続が確認できたことを知らせるメッセージが表示されます。

インターネット接続が確認できました！
インターネット接続設定を終了します。
右上の×をクリックし、本画面を閉じてください。

5 これでインターネットへの接続作業は完了です。引き続き、パソコンと本製品を無線LANで接続する場合は、P33「4.無線LANで接続する」へ進みます。

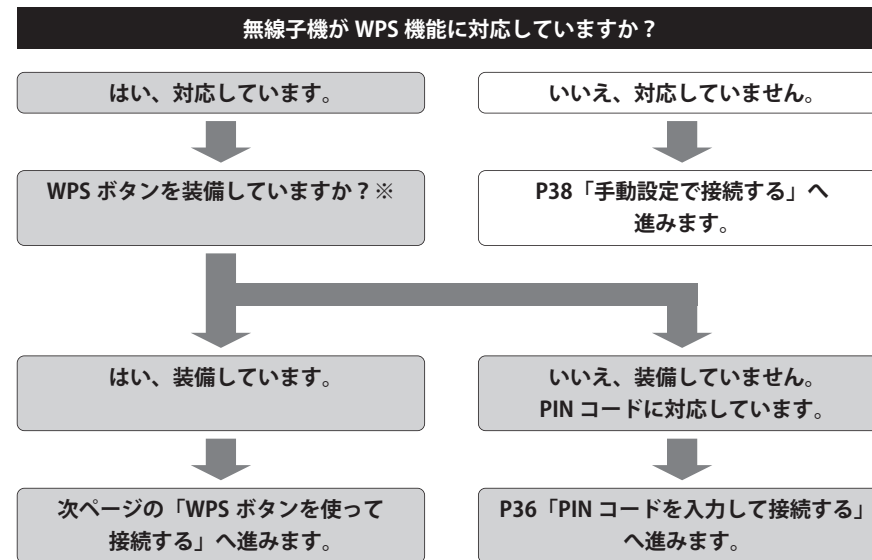
- 本製品の設定のために有線LANで接続していたパソコンを、無線LANで接続するようになる場合は、LANケーブルを取り外し、パソコンの無線LAN機能が使用できるように準備しておいてください。

4 無線LANで接続する

パソコンの無線子機(無線アダプタなど)から本製品を経由してインターネットに接続できるようにします。

はじめにご確認ください

本製品はWPS機能に対応しています。WPS機能に対応する無線子機との組み合わせで簡単に無線LAN機能を設定できます。ボタンを押すだけで設定ができる「プッシュボタン方式」と、用意された数字を入力するだけで設定できる「PINコード方式」の両方に対応しています。WPS機能に対応していない無線子機から本製品に接続するときは、本製品の設定値を無線子機側に設定することで接続することができます。



※ WPS ボタンについて

WPSの「プッシュボタン方式」は、無線子機本体に装備されている「WPS ボタン」を押して設定するタイプと、設定ユーティリティ上にある「WPS ボタン」アイコンをクリックして設定するタイプがあります。

WPSボタンを使って接続する

1 無線で接続するパソコンを、本製品と確実に通信できる場所に用意します。

2 無線子機の説明書をお読みになり、無線子機側が「WPS」設定をできるように準備します。



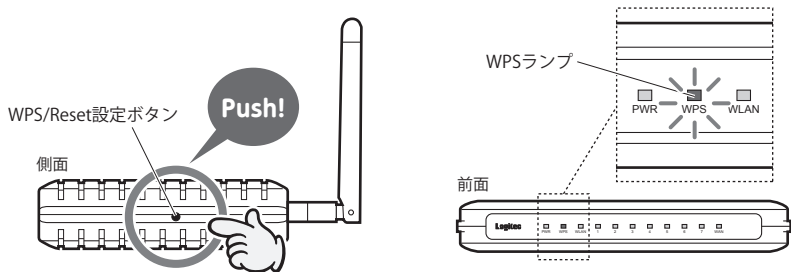
弊社製無線子機の画面例

3 本製品の側面にある「WPS/Reset ボタン」を1秒以上押し、離します。



注意

5秒以上押し、設定がリセットされてしまいますのでご注意ください。



• 前面にあるWPSランプが赤色に点滅し、WPS対応の無線子機の接続を待つ状態になります。WPSランプの点滅中に接続を完了する必要があります。



接続が完了するか、一定時間(約2分間)がすぎるとWPSランプは消灯します。

4 無線子機側のWPS用の「設定ボタン」を指定された時間だけ押します。

• 弊社製のWPS対応製品の場合は、本体の「設定ボタン」を1秒以上押し、離します。本体に設定ボタンがないモデルでは、ユーティリティの[WPS]ボタンをクリックします。

5 無線子機側の設定ユーティリティで、本製品に接続できたことを確認します。



弊社製無線アダプタの画面例

• 本製品のWPSランプは消灯します。

6 Webブラウザからお好みのホームページに接続し、正常に表示されることを確認します。



ロジテック Web サイト <http://www.logitec.co.jp/>

7 これでWPS機能を使った無線子機の設定は完了です。無線子機が他にもある場合は、同じ手順で設定します。

PINコードを入力して接続する

WPS機能のPINコード方式で設定します。無線ルータ側に設定されたPINコードを無線子機に入力する方法と、無線子機側に設定されたPINコードを無線ルータに入力する方法があります。ここでは無線ルータ側に設定されたPINコードを無線子機に入力する場合の操作の流れを説明します。



無線子機側のPINコードを本製品に入力する場合

P72「WPS機能の設定」をお読みになり、[クライアントのPINコードで設定]に、無線子機側のPINコードを入力し、実行してください。

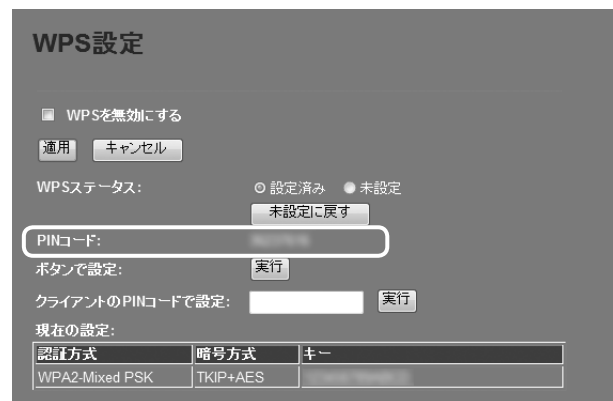
1 無線で接続するパソコンを、本製品と確実に通信できる場所に用意します。

2 本製品の設定ユーティリティを表示します。

- 設定ユーティリティの表示方法については、P28「設定ユーティリティを表示する」を参照してください。

3 設定ユーティリティで画面左のメニューリストから[無線設定]→[WPS設定]を選択して、〈WPS設定〉画面を表示します。

4 「PINコード」をメモします。



本製品のPINコード

5 無線子機の説明書をお読みになり、無線子機のPINコードの[設定モード]を「Registrar」に設定してから、本製品のPINコードを無線子機側に入力します(※)。



弊社製無線子機の画面例

※実際の無線子機によって項目名などが異なります。ご使用になる無線子機の説明書をお読みください。

6 本製品の設定ユーティリティの〈WPS設定〉画面で、[ボタンで設定]の「実行」をクリックします。



7 無線子機側でPINコードの受信を実行します。



弊社製無線子機の画面例

8 設定後、無線LAN経由でインターネットにアクセスするなどして、接続できていることを確認してください。

手動設定で接続する

WPS機能を持たない無線子機の場合は、無線子機側の設定ツールを使って、必要な設定を手動でおこないます。本製品の初期値の設定は以下の通りです。無線子機の説明書と、次ページからの作業の流れを参考にして、本製品の設定値を無線子機側に設定してください。

項目	本製品の設定値(初期値)	
SSID	logitecXX ※XXは、00～99の任意の数字です。	
認証方式	WPAプレシェアードキー	無線子機側では、WPA-PSKまたはWPA2-PSKを選択します。
暗号化方式	AES/TKIP	<ul style="list-style-type: none"> 無線子機側で、WPA-PSKを選択した場合は「TKIP」を指定します。 WPA2-PSKを選択した場合は「AES」を指定します。
WPAユニキャスト暗号スイート	WPA2 Mixed※	
共有キーフォーマット	パスフレーズ	
暗号キー	<p>本製品に付属の暗号キーステッカーをご覧ください。使用されている文字は半角英数字の大文字です。</p> <p>※出荷時期によっては、実際の暗号キーステッカーがイラストと異なる場合があります。</p> <p>KEY記入欄</p> <div style="border: 1px solid black; height: 20px; width: 100%;"></div>	

※無線子機側は、WPA-PSK (TKIP)、WPA2-PSK (AES) いずれを使用しても本製品に接続することができます。



上記の本製品の初期値にあわせ、暗号キーステッカー上の暗号キーを利用する場合は、本製品の設定ユーティリティを表示せずに、無線子機側の設定をおこなうだけで本製品に接続することができます。

- 1 無線で接続するパソコンを、本製品と確実に通信できる場所に用意します。
- 2 無線子機の設定ユーティリティを起動します。
- 3 設定ユーティリティのリストのSSIDに「logitecXX」と表示された場合は選択します。
 - XXには、00～99の任意の数字が表示されています。
 - SSIDを自動的に検出できない場合は、手動で無線子機の設定ユーティリティにある「SSID」に、本製品のSSIDの設定値(例：logitec42)を半角英数字(小文字)で入力します。
- 4 本製品はセキュリティ機能として暗号化機能(WPA2 Mixed※/TKIP・AES/パスフレーズ13文字)があらかじめ設定済みです。無線子機の設定ユーティリティにある[暗号化]に関する設定画面を表示します。
 - ※「WPA2 Mixed」では、無線子機側がWPA-PSK、WPA2-PSKいずれの設定でも、本製品に接続することができます。
- 5 無線子機の説明書をお読みになり、本製品の設定内容を無線子機側に設定します。
- 6 設定後、無線LAN経由でインターネットにアクセスするなどして、接続できていることを確認してください。

●暗号キーステッカー



暗号キー
(Xには、0～9、A～Hのランダムな英数字13文字が入ります)

Chapter 3

.....

詳細設定編

1 設定ユーティリティ画面について

本製品の各種機能を設定するには、パソコンからWebブラウザを使って、本製品の設定ユーティリティに接続する必要があります。ここでは、簡単に本製品の設定ユーティリティに接続する方法を説明します。

設定ユーティリティ画面を表示する

1 Internet ExplorerなどのWebブラウザを起動します。

2 Webブラウザの[アドレス]欄に、キーボードから「http://192.168.2.1」と入力し、キーボードの[Enter]キーを押します。



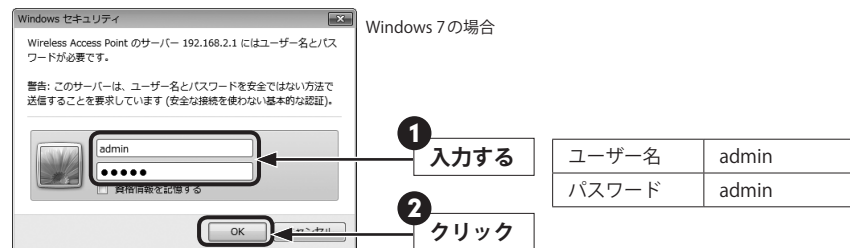
- 認証画面が表示されます。



認証画面が表示されない場合

パソコンよりも本製品が先に起動していないと、IPアドレスが正しく取得できないため接続できないことがあります。認証画面が表示されない場合は、本製品の電源を入れて、約3分程度待つてから、パソコンの電源を入れてください。

3 本製品のユーザー名とパスワードを入力し、**OK** をクリックします。

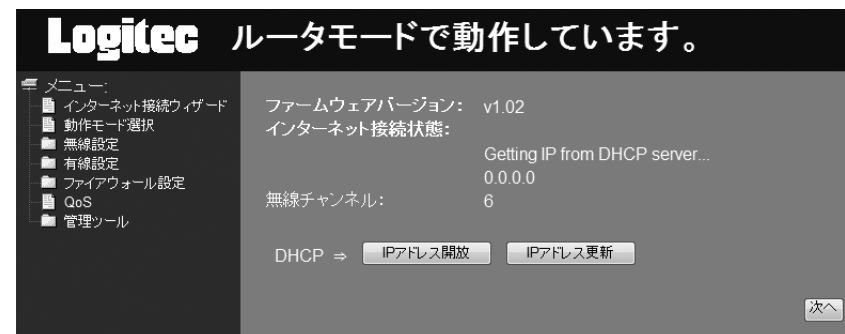


- 初期値は表のとおりです。半角英数字の小文字で入力します。
- 本製品の設定ユーティリティが表示されます。
- このあとは、必要に応じて該当の項目をお読みください。



不特定多数の人が利用するような環境では、第三者に設定を変更されないように、パスワードの変更をお勧めします(→P114「パスワード設定画面」)。

設定ユーティリティ画面の内容



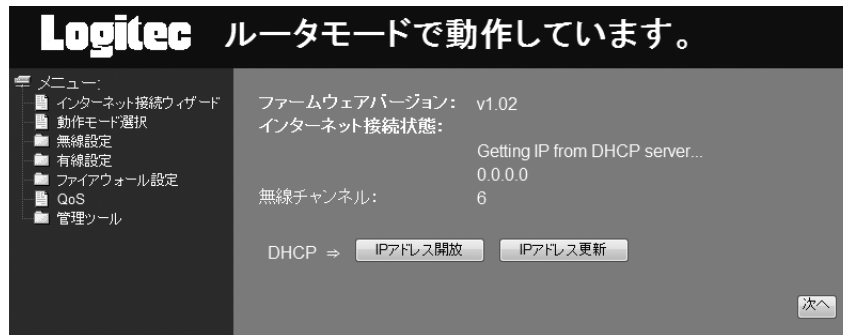
メニュー項目	内容
インターネット接続ウィザード	インターネット回線種別を選択するだけで、簡単にインターネットへの接続設定を完了できるウィザードです。(→P44)
無線設定	無線LANに関する、さまざまな設定をするメニューです。基本設定(→P49)、上級者向け設定(→P65)、セキュリティ設定(→P73)、アクセスコントロール(→P66)、WDS設定(→P68)、サイトサーベイ(→P71)、WPS設定(→P72)、無線スケジューリング設定(→P118)があります。
有線設定	有線LAN、WANの設定をします。LAN側設定(→P82)、WAN側設定(→P85)があります。
ファイアウォール設定	本製品にファイアウォール機能を設定できます。ポートフィルタ(→P90)、IPアドレスフィルタ(→P92)、MACアドレスフィルタ(→P94)、ポート転送(→P96)、URLブロック(→P98)、IPv6ブリッジ(→P100)、DMZ(→P101)があります。
QoS	全体の帯域のうち、特定のサービスに一定の帯域を確保できる「QoS」機能を設定できます(→P102)。
管理ツール	本製品を管理するためのメニューです。機器のステータス(→P105)、統計(→P107)、DDNS(→P108)、ログ(→P110)、ファームウェア更新(→P111)、設定保存/読込(→P112)、パスワード設定(→P114)があります。

2 インターネット接続ウィザード

インターネットに接続するための必要な設定をおこなう画面です。インターネット接続ウィザードの使い方は、P30「インターネット接続ウィザードでセットアップする」をお読みください。

画面の
表示

画面左のメニューリストから[インターネット接続ウィザード]を選択します。



IPアドレス開放	WAN (インターネット) 側の接続を切断し、WAN 側のIPアドレスを開放します。インターネットとは接続していない状態になります。
IPアドレス更新	WAN (インターネット) 側のIPアドレスを正しく取得できなかった場合などに、現在のWAN側のIPアドレスを開放し、再取得します。

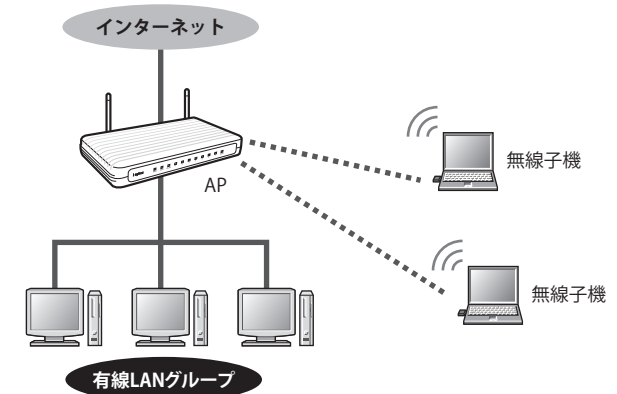
3 無線設定

本製品の無線LAN機能を設定します。

本製品で使用可能な通信モードについて

APモード

本製品の基本モードです。無線LAN機能を「無線LANアクセスポイント」として使用します。無線子機と通信できます。各項目の説明はP49「無線LANの基本設定」をお読みください。



WDSモード

本製品をブリッジ接続します。複数の本製品で相互に通信できます。ただし、無線子機と接続するAPモード機能は利用できません。設定の流れはP52「WDSモードで使う」をお読みください。ブリッジ接続する無線APの登録台数は、2台までを推奨します。

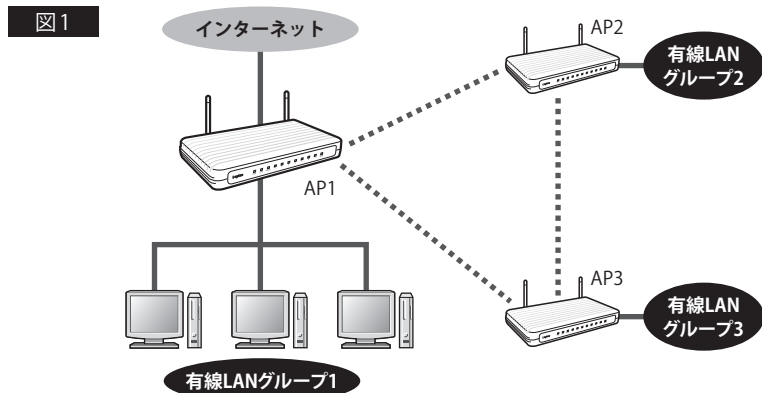
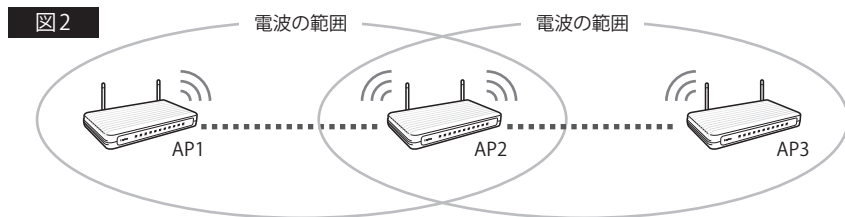


図1のようにAP1～AP3は、お互いが電波の届く範囲にあれば、それぞれの無線AP同士が直接通信することができます。また、図2のようにAP1とAP3が直接通信できない距離にある場合でも、AP1とAP3がそれぞれAP2と通信できる距離にあれば、AP1とAP3は、AP2を中継して通信できます。

※図を分かりやすくするため、各無線APに接続されている有線LANグループを省略しています。



AP + WDSモード

本製品を複数台と接続できるブリッジモードとして使用可能なうえ、無線子機とも通信できます。設定の流れはP58「AP + WDSモードで使う」をお読みください。ブリッジ接続する無線APの登録台数は、2台までを推奨します。



このモードは、本製品に負荷がかかり、通信速度が低下する場合があります。

注意

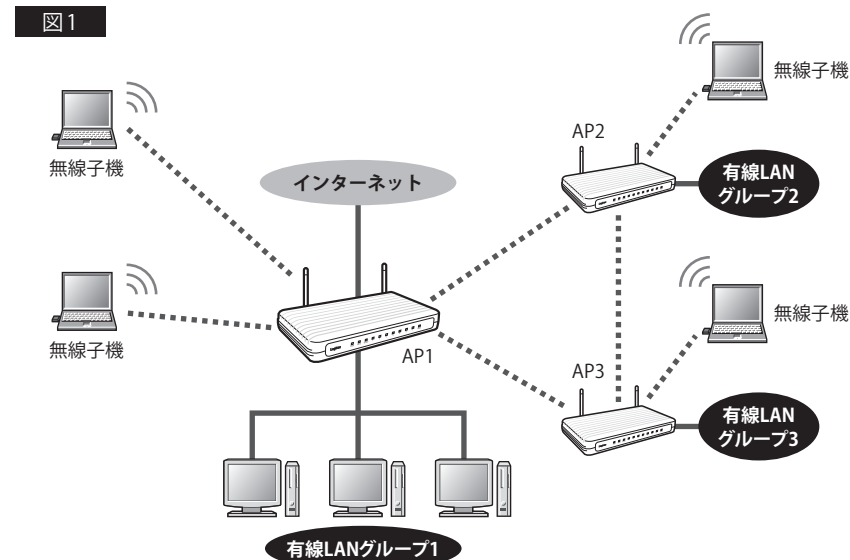
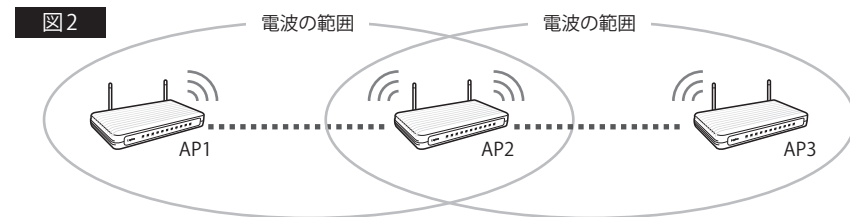


図1のようにAP1～AP3は、お互いが電波の届く範囲にあれば、それぞれのAP同士が直接通信することができます。さらに無線APは、有線クライアントだけでなく、無線子機とも無線LANで接続することができます。また、図2のようにAP1とAP3が直接通信できる距離にない場合でも、AP1とAP3がそれぞれAP2と通信できる距離にあれば、AP1とAP3は、AP2を中継して通信することができます。

※図を分かりやすくするため、各無線APに接続されている有線LANグループ等を省略しています。



WDSモード/AP+WDSモードでの設定の注意点



ここでは、本製品をルータ機能の使用の有無に関係なく、便宜上「無線AP」と表記しています。

●インターネットへの接続

ブリッジ接続上の複数の無線APで、インターネットに接続するのは、いずれか1台としてください。なお、インターネットに接続する1台については、「ルータモード」でご使用ください。

●各無線APのIPアドレスの割り当て

インターネットに接続する無線APのみDHCP機能を「サーバ」として利用するように設定し、その他の無線APはDHCP機能を「無効」と設定したうえで、同一ネットワーク上の他の機器とIPアドレスが重ならないように、手でIPアドレスを割り当ててください。

●設定用パソコンのIPアドレス

設定中に無線APと設定用パソコンを1対1で接続している場合などは、DHCP機能を「無効」に設定したあとも、設定用パソコンが設定ユーティリティに接続できるように、ご使用のネットワーク環境にあわせてIPアドレスを手動で割り当てておくことをお勧めします。パソコンのIPアドレスがDHCPサーバから自動取得になっている場合、無線APのIPアドレスを変更したあと、再接続できなくなることがあります。

●MACアドレスの設定

A、B、Cの3台の無線APでWDS機能を使用する場合、無線AP「A」には、BとCのMACアドレスを、無線AP「B」には、AとCのMACアドレスというように、お互いに接続相手となる無線APのMACアドレスを登録してください。MACアドレスは、[管理ツール]→[機器のステータス]→[機器のステータス]画面の[LAN側設定]にある[MACアドレス]に表示されたMACアドレスを入力してください。

●ネットワークの設定

WDS機能により、無線APに接続された有線クライアント同士がデータのやり取りをするには、別途、ネットワーク設定が必要です。無線AP同士が接続できても、異なるネットワークグループであれば、クライアント同士が接続することはできません。

●WDSモードのセキュリティ設定

すべての無線APのWDSのセキュリティ設定内容を同一にしておく必要があります。

●AP+WDSモードのセキュリティ設定

すべての無線APのWDSのセキュリティ設定内容を同一にしておく必要があります。さらに、APモードでのセキュリティ設定（[無線設定]→[セキュリティ設定]→[セキュリティ設定]画面の内容）とも同一にする必要があります。すべてのセキュリティ設定が同一になるように注意して設定してください。

●WPS機能

AP+WDSモードの場合は、WPS機能は使用できません。無線クライアントとのセキュリティ設定は手動でおこなってください。

無線LANの基本設定

無線LANの基本的な機能について設定します。無線LAN機能をどの通信モードで使用するかで設定内容が異なります。ここでは基本となる「APモード」について説明しています。他の通信モードについては、それぞれの説明ページをお読みください。

●WDSモードの場合→P52「WDSモードで使う」

●AP+WDSモードの場合→P58「AP+WDSモードで使う」



画面左のメニューリストから[無線設定]→[基本設定]を選択します。

基本設定

無線を無効にする

無線帯域: 2.4 GHz (B+G+N) ▼

モード: AP ▼

マルチSSID

SSID: logitec50

チャンネル幅: 20MHz ▼

チャンネル: Auto ▼

ブロードキャストSSID: 有効 ▼

WMM: 有効 ▼

データレート: Auto ▼

関連クライアント: 通信中のクライアントPCを表示する

適用 キャンセル



設定を変更した場合

設定を変更した場合は、必ず **適用** をクリックして設定を保存してください。引き続き他の項目の設定を続ける場合は **戻る** を、変更した内容をすぐに有効にする場合は **更新** をクリックし、画面のメッセージに従ってください。

●設定の内容

無線を無効にする		無線LANの設定をすべて無効にする場合にチェックします。チェックすると、無線LAN機能を使用できなくなります。 (初期値：オフ=無線LANが有効)
無線帯域	2.4 GHz (B + G + N)	初期値です。IEEE802.11n/11g/11bの3規格を使用します。
	2.4 GHz (B)	IEEE802.11b規格だけを使用します。
	2.4 GHz (G)	IEEE802.11g規格だけを使用します。
	2.4 GHz (N)	IEEE802.11n規格だけを使用します。
	2.4 GHz (B + G)	IEEE802.11g/11bの2規格を使用します。
	2.4 GHz (G + N)	IEEE802.11g/11nの2規格を使用します。
モード		使用する通信モードを選択します。無線子機と通信する基本的な無線LAN機能を利用する場合は、「AP (Access Point モード)」を選択します。その他のモードについては、P45「本製品で使用可能な通信モードについて」をお読みください。
マルチSSID		本製品は、2つのSSIDを同時に使用することができます。SSIDごとにセキュリティレベルを変更することもできます。「logitec2ndXX」が初期値として登録されています。設定方法は、P51「マルチSSIDを設定する」をお読みください。
SSID		無線LANで使用するSSIDを入力します。初期値は「logitecXX」が登録されています。
チャンネル幅		11n規格でのチャンネル幅を設定します。11n対応の無線クライアントと接続する場合、「40MHz」に設定することで伝送速度を速くすることができます。ただし、他の無線LANとの干渉などによっては、伝送速度が変わらない場合もあります。
チャンネル		使用するチャンネルを選択します。Autoまたは1～13chの中から選択します。チャンネルの異なる複数の無線機器を使用する場合は5チャンネル以上離してください。Autoを選択すると、自動でチャンネルが設定されます。(例) 1ch/6ch/11ch
ブロードキャストSSID		「有効」の場合は、無線子機側の設定ユーティリティなどから本製品に設定したSSIDを確認することができます。「無効」にした場合は、無線子機側の設定ユーティリティなどで、本製品のSSIDを表示できなくなります。不正アクセスを防ぐためや、SSIDを第三者に見せたくない場合などに「無効」にします。(初期値：有効)
WMM		WMM (Wi-Fi Multimedia) により安定したストリーミング通信をするための帯域を優先的に確保するかを設定します。(初期値：有効)
データレート		11n/11g/11b規格の通信における伝送速度を設定します。「Auto」に設定しておくと、通信環境にあわせて自動的に最適な速度で通信します。(初期値：Auto)
関連クライアント		<input type="button" value="通信中のクライアントPCを表示する"/> をクリックすると、無線クライアント(無線子機)のリストが別ウィンドウで表示されます。



●マルチSSIDのlogitecXXとlogitec2ndXX

WPS機能を使ったパソコン用のセキュリティ設定を「WPA2-PSK」、ゲーム機用のセキュリティには「WEP」が利用できるように2つのSSIDが用意されています。これにより、パソコンとゲーム機で異なるセキュリティ設定でも同時に接続できるようになっています。

logitecXX ^{※1}	パソコン用のSSIDです。セキュリティ設定の初期値は、WPA2-PSK/AES/暗号キー13文字になっています(→P38「手動設定で接続する」参照)。
logitec2ndXX ^{※1, ※2}	ゲーム機と接続するためのSSIDです。セキュリティ設定が初期値で「WEP」になっています。パソコンの無線子機を本製品にWPS機能を使って接続しても「WEP」のままです。

※1：XXは、いずれも00～99の任意の数字です。

※2：このSSIDに対してWPS機能は使えません。

●通信中の無線クライアント一覧画面について

をクリックするとリストを最新の状態に更新します。 をクリックすると、通信中の無線クライアント一覧画面を閉じます。

マルチSSIDを設定する

マルチSSID設定

No.	有効	無線帯域	SSID	データレート	ブロードキャストSSID	WMM	アクセス	通信中のクライアント
SSID2	<input checked="" type="checkbox"/>	2.4 GHz (B+G+N)	logitec2nd50	Auto	有効	有効	LAN+WAN	<input type="button" value="表示"/>

- ① をクリックします。
- ② 「有効」をチェックします。
- ③ SSIDに2つめのSSIDを入力します。初期値では「logitec2ndXX」が登録されています。
- ④ 必要に応じて、高度な設定をします(上記の一覧表参照)。
- ⑤ をクリックします。このあとの操作はP49「設定を変更した場合」をお読みください。



通信中のクライアント

をクリックすると、ここで設定したSSIDで接続している無線クライアント(無線子機)をリストで表示します。

WDSモードで使う

本製品をブリッジ接続します。複数の本製品と相互に通信できます。ただし、無線子機と接続するAPモード機能は利用できません。ブリッジ接続する無線APの相手台数は、2台までを推奨します。以下の手順で設定してください。

なお、ここでは本製品を、ルータ機能の使用の有無に関係なく、便宜上「無線AP」と表記しています。

- 1 設定を始める前に、ブリッジ接続の相手となる、すべての無線APのLAN側のMACアドレスをメモしておきます。



- 1 画面左のメニューリストから[管理ツール]→[機器のステータス]を選択します。
- 2 <機器のステータス>画面の[無線設定状況]にある[BSSID]のMACアドレスをメモします。
※[WAN側設定]のMACアドレスではありませんので注意してください。

- 2 画面左のメニューリストから[無線設定]→[基本設定]を選択します。<基本設定>画面が表示されますので、以下の内容を設定します。



- 1 [無線帯域]で、使用する帯域を選択します。
- 2 [モード]で、[WDS]を選択します。
- 3 [チャンネル]で、1～13の中から使用するチャンネルを選択します。接続相手の無線APのチャンネルも同じ設定にする必要があります。
- 4 必要に応じて、高度な設定をします(P50の一覧表参照)。
- 5 [適用]をクリックします。

- 3 「設定変更を反映します。」と表示されます。[更新]をクリックします。

- 4** 画面左のメニューリストから[無線設定]→[WDS設定]を選択します。〈WDS設定〉画面が表示されますので、以下の内容を設定します。

- ① [WDSを有効にする]をチェックします。
- ② [MACアドレス]に、あらかじめメモしておいた接続相手のLAN側のMACアドレスを入力します。
- ③ [データレート]で伝送速度を設定します。「Auto」に設定しておく、通信環境にあわせて自動的に最適な速度で通信します。
- ④ 必要に応じて[メモ]にコメントを入力します。
- ⑤ [適用]をクリックすると、「設定変更を反映します。」と表示されますので [更新] をクリックします。
- ⑥ 待ち時間が表示され、0秒になると自動的に〈WDS設定〉画面に戻ります。リストに登録したブリッジ接続の無線APが表示されます。
※詳細はP70「WDSを利用する無線APの登録方法」参照
- ⑦ 複数の無線APとブリッジ接続する場合は、②～⑥の操作をくり返します。
※適度な通信速度を確保するには、ブリッジ接続の相手は2台までを推奨します。
- ⑧ このあとブリッジ接続する無線AP間について、セキュリティ機能を設定する場合は、手順 **5** へ進みます。セキュリティ機能を設定しない場合は、手順 **6** へ進みます。

- 5** ブリッジ接続する無線AP間について、セキュリティ機能を設定する場合は、**セキュリティ設定** をクリックします。

- ① 〈WDSセキュリティ設定〉画面が表示されますので、各項目を設定します。
 - ・セキュリティ設定の項目については、P73「4.セキュリティを設定する(無線の暗号化)」を参照してください。
- ② すべての設定が終われば、[適用]をクリックします。
- ③ 「設定変更を反映します。」と表示されますので [更新] をクリックします。
 - ・待ち時間が表示され、0秒になると自動的に〈WDSセキュリティ設定〉画面に戻ります。

- 6** ブリッジ接続のセキュリティ設定と、無線AP⇄無線子機間のセキュリティ設定が異なる場合は、以下の手順でセキュリティ設定が同一になるように設定します。すでに同一になっている場合は、手順 **7** へ進みます。

- 1 画面左のメニューリストから[無線設定]→[セキュリティ設定]を選択します。
- 2 <セキュリティ設定>画面が表示されますので、無線AP⇄無線子機間のセキュリティ機能を設定します。
- 3 すべての設定が終われば、**適用** をクリックします。
- 4 「設定変更を反映します。」と表示されますので **更新** をクリックします。
 - ・ 待ち時間が表示され、0秒になると自動的に<セキュリティ設定>画面に戻ります。

- 7** DHCP機能を有効にする無線APは、これで設定完了です。ブリッジ接続するその他の無線APは、それぞれにIPアドレスを割り当てる必要がありますので、次の手順に進みます。



複数の無線APでブリッジ接続する場合

DHCP機能を使用する無線APは1台だけにします。インターネットに接続する無線APのみDHCP機能を「有効」に設定します。他の無線APはすべてDHCP機能を「無効」に設定してください。DHCP機能を「無効」にして使用する無線APについては、手動でIPアドレスを割り当ててください。

※インターネットに接続している複数の本製品同士をブリッジ接続することはできません。

- 8** DHCP機能を「有効」で使用する1台を除き、DHCP機能を「無効」に変更し、IPアドレスを手動設定します。
画面左のメニューリストから[有線設定]→[LAN側設定]を選択します。



DHCP機能を「無効」にできない場合

出荷時によっては、DHCP機能を「無効」にできない場合があります。このようなときは、ロジテック ホームページより、最新のファームウェアをダウンロードしたのち、ファームウェアのアップデート(→P111)を実行してください。

- 1 ご使用のネットワーク環境にあわせたIPアドレスを[装置のIPアドレス]に入力します。
 - ・ IPアドレスが他のネットワーク機器や、DHCP機能の割り当て範囲と重ならないように注意してください。
- 2 [DHCP]を[無効]にします。
- 3 **適用** をクリックします。
- 4 「設定変更を反映します。」と表示されますので **更新** をクリックします。
 - ・ 待ち時間が表示され、0秒になると更新の完了です。
 - ※ファームウェアのバージョンによって、多少操作が異なることがあります。

- 9** Webブラウザのアドレス欄に、手動設定したIPアドレスを入力し、設定ユーティリティに接続します。



設定用のパソコンがDHCPサーバ機能によりIPアドレスを自動取得するように設定している場合、DHCP機能を「無効」にしたことにより、設定ユーティリティに接続できなくなることがあります。設定ユーティリティに接続する場合は、設定用パソコンのIPアドレスを手動で割り当てなおしてください。

- 10** 画面左のメニューリストから[有線設定]→[LAN側設定]を選択します。<LAN側設定>画面が表示されますので、内容が正しく変更されているかを確認します。

11 これでWDSモードの設定は終わりです。ブリッジ接続する他の無線APを同様に設定します。

- すべての無線APの設定が正しくできていることが確認できれば、すべての機器の電源が入った状態で、クライアントからインターネットまたは共有ファイルに接続できることを確認します。

AP + WDSモードで使う

複数の無線AP同士をブリッジ接続で使用可能なうえ、各無線APが無線クライアントとも通信できます。ブリッジ接続する無線APの相手台数は、2台までを推奨します。以下の手順で設定してください。なお、ここでは本製品を、ルータ機能の使用の有無に関係なく、便宜上「無線AP」と表記しています。



AP + WDSモードでは、無線クライアントとの接続にWPS機能は使用できません。

注意

1 設定を始める前に、ブリッジ接続の相手となる、すべての無線APのLAN側のMACアドレスをメモしておきます。

機器のステータス	
システム	
Uptime	0day:0h:1m:10s
ファームウェア Ver.	v1.02
Build Time	Fri Jul 1 08:17:47 CST 2011
無線設定状況	
モード	AP
帯域	2.4 GHz (B+G+N)
SSID	logitec50
チャンネル	13
暗号化	WPA2 Mixed
BSSID	00:00:00:00:00:00
関連クライアント数	0

- 1 画面左のメニューリストから[管理ツール]→[機器のステータス]を選択します。
- 2 <機器のステータス>画面の[無線設定状況]にある[BSSID]のMACアドレスをメモします。

※[WAN側設定]のMACアドレスではありませんので注意してください。

2 画面左のメニューリストから[無線設定]→[基本設定]を選択します。<基本設定>画面が表示されますので、以下の内容を設定します。

基本設定

無線を無効にする

無線帯域: 2.4 GHz (B+G+N) ▾

モード: AP+WDS ▾

SSID: logitec50

チャンネル幅: 20MHz ▾

チャンネル: 5 ▾

ブロードキャストSSID: 有効 ▾

WMM: 有効 ▾

データレート: Auto ▾

関連クライアント:

- 1 [無線帯域]で、使用する帯域を選択します。
- 2 [モード]で、[AP + WDS]を選択します。
- 3 [チャンネル幅]で、[20MHz]または[40MHz]を選択します。
- 4 [チャンネル]で、1~13の中から使用するチャンネルを選択します。接続相手の無線APのチャンネルも同じ設定にする必要があります。
- 5 必要に応じて、高度な設定をします(P50の一覧表参照)。
- 6 をクリックします。

3 「設定変更を反映します。」と表示されます。 をクリックします。

- 4** 画面左のメニューリストから[無線設定]→[WDS設定]を選択します。〈WDS設定〉画面が表示されますので、以下の内容を設定します。

- ① [WDSを有効にする]をチェックします。
- ② [MACアドレス]に、あらかじめメモしておいた接続相手のLAN側のMACアドレスを入力します。
- ③ [データレート]で伝送速度を設定します。「Auto」に設定しておくと、通信環境にあわせて自動的に最適な速度で通信します。
- ④ 必要に応じて[メモ]にコメントを入力します。
- ⑤ [適用]をクリックすると、「設定変更を反映します。」と表示されますので [更新] をクリックします。
- ⑥ 待ち時間が表示され、0秒になると自動的に〈WDS設定〉画面に戻ります。リストに登録したブリッジ接続の無線APが表示されます。
※詳細はP70「WDSを利用する無線APの登録方法」参照
- ⑦ 複数の無線APとブリッジ接続する場合は、②～⑥の操作をくり返します。
※適度な通信速度を確保するには、ブリッジ接続の相手は2台までを推奨します。
- ⑧ このあとブリッジ接続する無線AP間について、セキュリティ機能を設定する場合は、手順 **5** へ進みます。セキュリティ機能を設定しない場合は、手順 **6** へ進みます。

- 5** ブリッジ接続する無線AP間について、セキュリティ機能を設定する場合は、セキュリティ設定をクリックします。

- ① 〈WDSセキュリティ設定〉画面が表示されますので、各項目を設定します。
 - ・セキュリティ設定の項目については、P73「4.セキュリティを設定する(無線の暗号化)」を参照してください。
- ② すべての設定が終われば、[適用]をクリックします。
- ③ 「設定変更を反映します。」と表示されますので [更新] をクリックします。
 - ・待ち時間が表示され、0秒になると自動的に〈WDSセキュリティ設定〉画面に戻ります。



注意

セキュリティ設定について

本モードでは、ブリッジ接続による無線APのセキュリティ設定と、無線子機⇄無線AP間のセキュリティ設定は同一の設定にする必要があります。
ここでの設定と、[無線設定]→[セキュリティ設定]のセキュリティ設定が同一になるようしてください。

- 6** ブリッジ接続のセキュリティ設定と、無線AP⇄無線子機間のセキュリティ設定が異なっている場合は、以下の手順でセキュリティ設定が同一になるように設定します。すでに同一になっている場合は、手順 **7** へ進みます。

セキュリティ設定

SSID選択: logitec50 [適用] [キャンセル]

暗号化: WPA2-Mixed

暗号方式: Enterprise (RADIUS) Personal (パスフレーズキー)

WPA暗号スイート: TKIP AES

WPA2暗号スイート: TKIP AES

共有キーフォーマット: パスフレーズ

共有キー: ●●●●●●●●

パスワードの表示:

- 画面左のメニューリストから[無線設定]→[セキュリティ設定]を選択します。
- 〈セキュリティ設定〉画面が表示されますので、無線AP⇄無線子機間のセキュリティ機能を設定します。
- すべての設定が終われば、[適用]をクリックします。
- 「設定変更を反映します。」と表示されますので[更新]をクリックします。
 - 待ち時間が表示され、0秒になると自動的に〈セキュリティ設定〉画面に戻ります。

- 7** DHCP機能を有効にする無線APは、これで設定完了です。ブリッジ接続するその他の無線APは、それぞれにIPアドレスを割り当てる必要がありますので、次の手順に進みます。



複数の無線APでブリッジ接続する場合

DHCP機能を使用する無線APは1台だけにします。インターネットに接続する無線APのみDHCP機能を「有効」に設定します。他の無線APはすべてDHCP機能を「無効」に設定してください。DHCP機能を「無効」にして使用する無線APについては、手動でIPアドレスを割り当ててください。

※インターネットに接続している複数の本製品同士をブリッジ接続することはできません。

- 8** DHCP機能を「有効」で使用する1台を除き、DHCP機能を「無効」に変更し、IPアドレスを手動設定します。画面左のメニューリストから[有線設定]→[LAN側設定]を選択します。



DHCP機能を「無効」にできない場合

出荷時によっては、DHCP機能を「無効」にできない場合があります。このようなときは、ロジテック ホームページより、最新のファームウェアをダウンロードしたのち、ファームウェアのアップデート(→P111)を実行してください。

LAN側設定

装置のIPアドレス: 192.168.2.3

サブネットマスク: 255.255.255.0

DHCPクライアントレンジ: 192.168.2.100 - 192.168.2.200 [クライアントの表示]

固定DHCP: [固定DHCP設定]

[適用] [キャンセル]

- ご使用のネットワーク環境にあわせたIPアドレスを[装置のIPアドレス]に入力します。
 - IPアドレスが他のネットワーク機器や、DHCP機能の割り当て範囲と重ならないように注意してください。
- [DHCP]を[無効]にします。
- [適用]をクリックします。
- 「設定変更を反映します。」と表示されますので[更新]をクリックします。
 - 待ち時間が表示され、0秒になると更新の完了です。
 - ※ファームウェアのバージョンによって、多少操作が異なることがあります。

- 9** Webブラウザのアドレス欄に、手動設定したIPアドレスを入力し、設定ユーティリティに接続します。



設定用のパソコンがDHCPサーバ機能によりIPアドレスを自動取得するように設定している場合、DHCP機能を「無効」にしたことにより、設定ユーティリティに接続できなくなることがあります。設定ユーティリティに接続する場合は、設定用パソコンのIPアドレスを手動で割り当てなおしてください。

- 10** 画面左のメニューリストから[有線設定]→[LAN側設定]を選択します。〈LAN側設定〉画面が表示されますので、内容が正しく変更されているかを確認します。

11 これでAP+WDSモードの設定は終わりです。ブリッジ接続する他の無線APを同様に設定します。

- すべての無線APの設定が正しくできていることが確認できれば、すべての機器の電源が入った状態で、クライアントからインターネットまたは共有ファイルに接続できることを確認します。



無線クライアントの設定

AP+WDSモードでは、各無線APに無線クライアントから接続することができます。ただし、AP+WDSモードでは、「WPS機能」が使用できません。無線APに設定した無線LAN設定をメモして、手動で各無線クライアントの無線LAN設定をしてください。

上級者向け設定画面

無線LANの高度なオプション機能を設定できます。これらの設定には無線LANに関する十分な知識が必要です。



画面左のメニューリストから[無線設定]→[上級者向け設定]を選択します。

上級者向け設定

フラグメントしきい値: (256-2346)

RTSしきい値: (0-2347)

ビーコン間隔: (20-1024 ms)

プリアンブルタイプ: ロングプリアンブル ショートプリアンブル

送信パワー: 100% 70% 50% 35% 15%



設定を変更した場合

設定を変更した場合は、必ず **適用** をクリックして設定を保存してください。引き続き他の項目の設定を続ける場合は **戻る** を、変更した内容をすぐに有効にする場合は **更新** をクリックし、画面のメッセージに従ってください。

●**詳細設定** 各項目の数値に指定可能な範囲がある場合は、数値の右側にカッコで表示しています。

フラグメントしきい値	フラグメントしきい値を設定します。パケットが設定サイズを超えた場合に分割して送信します。(初期値：2346)
RTSしきい値	本製品がRTS(送信要求)信号を送信するパケットサイズを設定します。(初期値：2347)
ビーコン間隔	本製品が送信するビーコンフレームの送信間隔を設定します。(初期値：100)
プリアンブルタイプ	無線通信の同期をとるプリアンブル信号の種類(長さ)を選択します。ショートプリアンブルのほうが伝送速度を速くすることができます。ただし、古いタイプの無線クライアントを使用する場合などは、互換性を確保するために「ロングプリアンブル」を選択します。(初期値：ロングプリアンブル)
送信パワー	電波の出力強度を調整できます。電波が遠くまで飛びすぎる場合に、環境にあわせて強度を設定します。(初期値：100%)

アクセスコントロール画面

登録したMACアドレスを持つ無線子機とだけ無線LANで通信できるようにしたり、通信を拒否したりできます。第三者の無線子機からの不正アクセスを防止するのに役立ちます。有線クライアントも含めて制限したい場合は、P94「MACアドレスフィルタ画面」をお読みください。

画面の表示

左のメニューリストから[無線設定]→[アクセスコントロール]を選択します。

無線アクセスコントロール機能: 無効

MACアドレス: メモ:

無線アクセスコントロールリスト:

MACアドレス	メモ	選択



設定を変更した場合

設定を変更した場合は、必ず をクリックして設定を保存してください。引き続き他の項目の設定を続ける場合は を、変更した内容をすぐに有効にする場合は をクリックし、画面のメッセージに従ってください。

●入力・設定画面の内容

無線アクセスコントロール機能	「無効」…アクセスコントロール機能を使用しません。 「許可」…[無線アクセスコントロールリスト]に登録したMACアドレスを持つ無線子機だけが無線LANで接続できます。 「拒否」…[無線アクセスコントロールリスト]に登録したMACアドレスを持つ無線子機との無線LAN接続を拒否します。
MACアドレス	本製品への無線LAN接続を許可または拒否する無線子機のMACアドレスを入力します。
メモ	自由にコメントを入力できます。登録した無線子機を区別するのに便利です。

●無線アクセスコントロールリスト

入力画面で設定した内容をリストとして表示します。[選択]は、登録した無線子機の情報を削除する場合にチェックします。

●各ボタンの機能

選択したものを削除	[選択]をチェックした無線子機をリストから消去します。このボタンをクリックすると確認の画面が表示されますので、 <input type="button" value="OK"/> をクリックしたあと、 <input type="button" value="更新"/> をクリックします。
全て削除	リストの無線子機の設定をすべて消去します。このボタンをクリックすると確認の画面が表示されますので、 <input type="button" value="OK"/> をクリックしたあと、 <input type="button" value="更新"/> をクリックします。
キャンセル	[選択]のチェックをすべてクリアします。

無線子機の登録方法

無線アクセスコントロール機能: 許可

MACアドレス: 1234567890ab メモ: sales-team05

無線アクセスコントロールリスト:

MACアドレス	メモ	選択

- 1 [無線アクセスコントロール機能]で[許可]または[拒否]を選択します。
- 2 無線子機のMACアドレスを入力します。「:」で区切る必要はありません。
例 1234567890gh
- 3 無線子機を区別するための名称など、コメントを自由に入力することができます。
- 4 をクリックします。このあとの操作はP66「設定を変更した場合」をお読みください。
- 5 登録する無線子機が複数ある場合は、1～4を繰り返します。

WDS設定画面

WDS機能を使ってブリッジモードで本製品を使用する場合の設定をします。〈基本設定〉画面の「モード」で[WDS]または[AP+WDS]を選択した場合に設定できます。

画面の表示

画面左のメニューリストから[無線設定]→[WDS設定]を選択します。



●設定を変更した場合

設定を変更した場合は、必ず「適用」をクリックして設定を保存してください。

●「WDSを有効にする」がチェックできない場合

〈基本設定〉画面の「モード」で「WDS」または「AP+WDS」を選択し、「適用」をクリックして設定を保存してから、この画面に進んでください。

●WDS設定

WDSを有効にする	WDS機能を有効にする場合にチェックします。 (初期値：オフ=WDS機能が無効)
MACアドレス	ブリッジ接続する無線APのMACアドレスを入力します。
データレート	11n/11g/11b規格の通信における伝送速度を設定します。「Auto」に設定しておく、通信環境にあわせて自動的に最適な速度で通信します。(初期値：Auto)
メモ	自由にコメントを入力できます。登録した無線APを区別するのに便利です。

●現在のWDSアクセスポイントリスト

入力画面で設定した内容をリストとして表示します。[選択]は、登録した無線APの情報を削除する場合にチェックします。

●各ボタンの機能

適用	入力したMACアドレスを持つ無線APをWDSによる接続相手として登録します。
キャンセル	入力中の内容をクリアします。
セキュリティ設定	WDSによるブリッジ接続でのセキュリティ方法を設定します。P70「●WDSセキュリティ設定について」をお読みください。
ステータス表示	〈WDSアクセスポイントステータス〉画面が表示されます。

選択したものを削除	[選択]をチェックした無線APをリストから消去します。このボタンをクリックすると確認の画面が表示されますので、「OK」をクリックしたあと、「更新」をクリックします。
全て削除	リストの無線APの設定をすべて消去します。このボタンをクリックすると確認の画面が表示されますので、「OK」をクリックしたあと、「更新」をクリックします。
キャンセル	[選択]のチェックをすべてクリアします。

●〈WDSアクセスポイントステータス〉画面

登録した無線APの統計情報を表示します。

WDSを利用する無線APの登録方法

WDSを有効にする

MACアドレス:

データレート:

メモ:

- 1 [WDSを有効にする]をチェックして、WDSが利用できるようにします。
- 2 [MAC アドレス]に、MAC アドレスを入力します。「:」で区切る必要はありません。
例 1a2b3c445dff
- 3 [データレート]で伝送速度を設定します。「Auto」に設定しておくで、通信環境にあわせて自動的に最適な速度で通信します。
- 4 必要に応じて[メモ]にコメントを入力します。
- 5 をクリックすると、「設定変更を反映します。」と表示されますので をクリックします。
- 6 待ち時間が表示され、0秒になると自動的に<WDS設定>画面に戻ります。リストに登録したWDS用の無線APが表示されます。

●WDSセキュリティ設定について

<WDS設定>画面で、 をクリックするとWDS用のセキュリティ設定画面が表示されます。

WDSセキュリティ設定

暗号化:

WEPキーフォーマット:

WEPキー:

共有キーフォーマット:

共有キー:



注意

セキュリティ設定について

「AP + WDS」モードを使用する場合は、ブリッジ接続による無線APのセキュリティ設定と、無線子機⇄無線AP間のセキュリティ設定は同一の設定にする必要があります。

ここでの設定と、[無線設定]→[セキュリティ設定]のセキュリティ設定が同一になるようしてください。

設定の方法については、P73「4.セキュリティを設定する(無線の暗号化)」を参考に設定してください。

サイトサーベイ画面

本製品の電波の届く範囲に存在する無線クライアント(無線子機)を一覧で表示します。本製品とリンクしていない無線クライアントも表示されます。

無線LANサイトサーベイ

SSID	BSSID	チャンネル	タイプ	暗号化	信号強度
		5 (B+G)	AP	WEP	18
		11 (B+G+N)	AP	WPA-PSK/WPA2-PSK	16
		11 (B+G+N)	AP	WPA-PSK	16

SSID	無線クライアントが使用するSSIDを表示します。
BSSID	無線クライアントのBSSIDを表示します。
チャンネル	無線クライアントが使用する無線規格およびチャンネルを表示します。
タイプ	本製品と無線クライアントとの接続状態を表示します。
暗号化	無線クライアントが使用する暗号化方式を表示します。
信号強度	無線クライアントとの電波の強度を%で表示します。数字が大きいほど安定して接続できます。

●ボタンの機能

更新	最新の情報にリストを更新します。
----	------------------

WPS機能の設定

WPS (Wi-Fi Protected Setup) 機能の設定をします。

画面の表示

画面左のメニューリストから[無線設定]→[WPS設定]を選択します。

WPS設定

WPSを無効にする
適用 キャンセル

WPSステータス: 設定済み 未設定
未設定に戻す

PINコード:
ボタンで設定: 実行

クライアントのPINコードで設定: [] 実行

現在の設定:

認証方式	暗号方式	キー
WPA2-Mixed PSK	TKIP+AES	



設定を変更した場合

設定を変更した場合は、必ず **適用** をクリックして設定を保存してください。引き続き他の項目の設定を続ける場合は **戻る** を、変更した内容をすぐに有効にする場合は **更新** をクリックし、画面のメッセージに従ってください。

● WPS設定

WPSを無効にする	WPS機能を無効にする場合にチェックします。(初期値：オフ)
WPSステータス	現在のWPS設定の状態を表示します。
未設定に戻す	WPS設定を初期値に戻します。
PINコード	本製品のPINコードを表示します。
ボタンで設定	実行 をクリックすることで、WPS機能を実行できます。本製品の本体に装備された「WPS設定ボタン」を押すのと同じことです。
クライアントのPINコードで設定	本製品側で無線機のPINコードにあわせる場合に、ここに無線機側のPINコードを入力し、 実行 をクリックします。
現在の設定	現在のセキュリティ設定の状態を表示します。

4

セキュリティを設定する(無線の暗号化)

無線LANで使用するデータの暗号化などのセキュリティの設定方法について説明します。

●本製品で設定可能なセキュリティ機能

WEP	無線LANの普及期からある暗号化方式です。本製品は64bitと128bitの2種類の暗号強度が選択できます。ご利用の無線LAN環境でWPA-PSKまたはWPA2-PSKが使用可能な場合は、そちらを使用することをお勧めします。
WPA-PSK WPA2-PSK	新しいセキュリティである「WPA」を使用します。本製品では、WPA-PSK (TKIP) とWPA2-PSK (AES) が使用できます。
WPA2-Mixed	WPA-PSK (TKIP) とWPA2-PSK (AES) の混在環境に対応します。

●本製品のセキュリティ設定の初期値

項目	本製品の設定値(初期値)	
SSID	logitecXX ※XXは、00~99の任意の数字です。	
認証方式	WPAプレシェアードキー	無線機側では、WPA-PSKまたはWPA2-PSKを選択します。
暗号化方式	AES/TKIP	<ul style="list-style-type: none"> 無線機側で、WPA-PSKを選択した場合は「TKIP」を指定します。 WPA2-PSKを選択した場合は「AES」を指定します。
WPAユニキャスト暗号サイト	WPA2 Mixed ※	
共有キーフォーマット	パスフレーズ	
暗号キー	<p>本製品に付属の暗号キーステッカーをご覧ください。使用されている文字は半角英数字の大文字です。</p> <p>※出荷時期によっては、実際の暗号キーステッカーがイラストと異なる場合があります。</p> <p>KEY記入欄</p> <div style="border: 1px solid black; height: 20px; width: 100%;"></div>	<p>●暗号キーステッカー</p> <p>初期SSID 別期暗号キー (Key: 0~9, A~H(大文字)で構成されています。)</p> <p>1st SSID : logitecXX 2nd SSID : logitec2ndXX</p> <p>Key : XXXXXXXXXXXXX</p> <p>MACアドレス: xxxxxxxxxxxxxx</p> <p>※この暗号キーは本製品に付属の暗号キーとは異なり、暗号化は行われません。</p> <p>本製品の 設定記録 ユーザー名: admin ユーザー名: admin パスワード: admin IPアドレス: 192.168.2.1</p> <p>暗号キー (Xには、0~9、A~Hのランダムな英数字13文字が入ります)</p>

※無線機側は、WPA-PSK (TKIP)、WPA2-PSK (AES) いずれを使用しても本製品に接続することができません。

WEPの設定

無線通信の暗号化セキュリティに「WEP」を使用します。

画面の表示

画面左のメニューリストから[無線設定]→[セキュリティ設定]を選択します。

◆ WEP 選択時の設定画面

設定の手順



本製品および本製品に接続する、すべての無線子機は、各項目の設定値がすべて同一になっている必要があります。設定が一部でも異なっていると無線LANを利用できません。

注意

1 [SSID選択]で、セキュリティ設定をする「SSID」を選択します。

2 [暗号化]で、[WEP]を選択します。

3 オフィスユースなどで「802.1x認証」を使用している場合は、[802.1x認証]をチェックします。

• ホームユースなど通常はオフのまま変更しないでください。

4 認証方式を選択します。

• わからない場合は「Auto」を選択します。

5 [キー長]でセキュリティ強度を選択します。通常は128bitを選択します。



ご使用になる無線子機が64bitにしか対応していない場合などは、64bitを選択します。ご使用になる無線子機に1台でも64bitにしか対応していないものがある場合は、64bitしか使用できません。なお、64bitはセキュリティ性が低くお勧めできませんので、なるべく使用しないでください。

6 [キーフォーマット]で暗号化キーの入力形式を選択します。



- ここで選択した形式の文字列で暗号化キーを設定します。

ASCII (5文字)	キー長で64bitを選択した場合です。[暗号化キー]に、半角英数字5文字を入力します。
ASCII (13文字)	キー長で128bitを選択した場合です。[暗号化キー]に、半角英数字13文字を入力します。
Hex (10文字)	キー長で64bitを選択した場合です。[暗号化キー]に、16進数10文字を入力します。
Hex (26文字)	キー長で128bitを選択した場合です。[暗号化キー]に、16進数26文字を入力します。

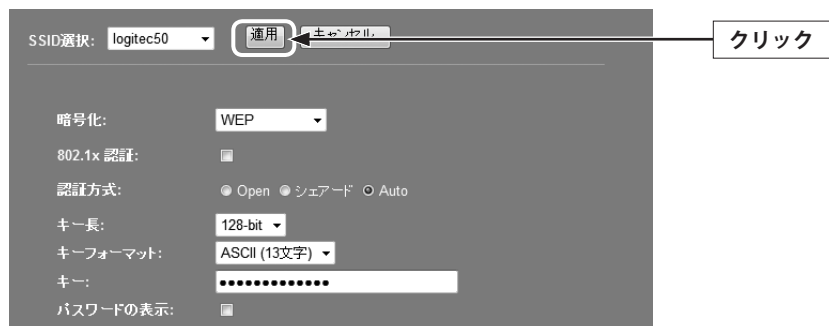
※16進数とは、0~9、a-fを組み合わせた文字列です。

7 手順 6 で選んだ入力形式で、暗号化キーを入力します。

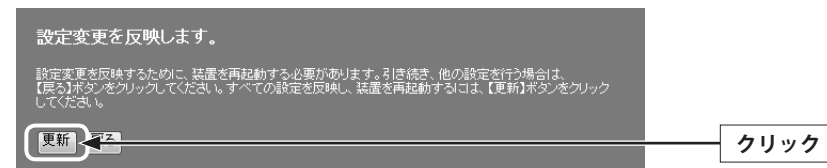


- ASCIIの場合は大文字と小文字が区別されます。Hexの場合は大文字と小文字は区別されません。

8 すべての設定が終われば [適用] をクリックします。



9 「設定変更を反映します。」と表示されます。 [更新] をクリックします。



10 待ち時間が表示され、0秒になると自動的に<セキュリティ設定>画面に戻ります。

11 これで本製品のWEPによるセキュリティ設定は完了です。同じ設定を無線子機側にも設定してください。

- 無線子機側の設定方法は、無線子機のマニュアルをお読みください。

WPA-PSK/WPA2-PSKの設定

WPA-PSK (TKIP) または WPA2-PSK (AES) を使ってセキュリティ設定をします。WPA2-PSK/WPA-PSK は、小規模なネットワークでも安全度の高いセキュリティを簡単に実現できます。設定にあたっては、あらかじめ「共有キー」を決めておいてください。



注意

本製品および本製品に接続する、すべての無線子機は、各項目の設定値がすべて同一になっている必要があります。設定が一部でも異なっていると無線LANを利用できません。



画面の表示

画面左のメニューリストから [無線設定] → [セキュリティ設定] を選択します。

◆ WPA-PSK 選択時の設定画面

ここをチェックすることで、現在のパスワードを表示できます。

1 [暗号化] で、[WPA]、[WPA2] または [WPA2-Mixed] を選択します。

WPA	WPA-PSK を使用します。[WPA暗号サイト] は、自動的に「TKIP」になります。「AES」は選択できません。
WPA2	WPA2-PSK を使用します。[WPA2暗号サイト] は、自動的に「AES」になります。「TKIP」は選択できません。
WPA2-Mixed	無線クライアントに WPA-PSK (「AES」または「TKIP」) と WPA2-PSK (「AES」または「TKIP」) が混在している場合でも、いずれの無線子機とも接続できます。また、無線子機がすべて「WPA2-PSK (TKIP)」の場合も、こちらを選択します。

2 暗号方式を選択します。

Enterprise (RADIUS)	ビジネスユースなどで RADIUS 認証サーバを利用している場合に選択します。手順 3 へ進みます。
Personal (パスフレーズキー)	ホームユースなどで RADIUS 認証サーバを使用していない場合に選択します。手順 4 へ進みます。

- 3** ビジネスユースなどでRADIUS認証サーバを利用している場合に設定します。設定が終われば、手順 **6** へ進みます。

暗号方式	[選択] をチェックした無線APをリストから消去します。このボタンをクリックすると確認の画面が表示されますので、 [OK] をクリックしたあと、 [更新] をクリックします。
WPA暗号スイート	[暗号化] で選択した項目により異なります。 「WPA」を選択した場合：自動的に「TKIP」になります。 「WPA2」を選択した場合：自動的に「AES」になります。 「WPA2-Mixed」を選択した場合： [WPA暗号スイート] は自動的に「TKIP」になります。[WPA2暗号スイート] は自動的に「AES」になります。
RADIUSサーバIPアドレス	RADIUSサーバのIPアドレスを指定します。
RADIUSサーバポート	RADIUSサーバのポート番号を指定します。(初期値：1812)
RADIUSサーバパスワード	RADIUSサーバのパスワードを入力します。

- 4** [共有キーフォーマット] で、共有キーの入力形式を選択します。

パスフレーズ	半角英数字(8~63文字)を使用できます。大文字と小文字が区別されます。
Hex	16進数64文字(固定)を使用できます。大文字と小文字は区別されません。

※16進数とは、半角英数字の0~9、a-fを組み合わせた文字列です。

- 5** [共有キー] に、手順 **4** で選択した入力形式で文字列を入力します。

- 6** すべての設定が終われば **[適用]** をクリックします。

- 7** 「設定変更を反映します。」と表示されます。 **[更新]** をクリックします。

- 8** 待ち時間が表示され、0秒になると自動的に<セキュリティ設定>画面に戻ります。

- 9** これで本製品のWPAによるセキュリティ設定は完了です。同じ設定を無線子機側にも設定してください。

• 無線子機側の設定方法は、無線子機のマニュアルをお読みください。

5 有線設定

有線のLANポートおよびWANポートに関する設定をします。

LAN側設定画面

本製品のLAN（ローカルネットワーク）側のIPアドレス情報等を設定します。



画面左のメニューリストから[有線設定]→[LAN側設定]を選択します。

LAN側設定

装置のIPアドレス: 192.168.2.1

サブネットマスク: 255.255.255.0

DHCPクライアントレンジ: 192.168.2.100 - 192.168.2.200 クライアントの表示

固定DHCP: 固定DHCP設定

適用 キャンセル



設定を変更した場合

設定を変更した場合は、必ず 適用 をクリックして設定を保存してください。引き続き他の項目の設定を続ける場合は 戻る を、変更した内容をすぐに有効にする場合は 更新 をクリックし、画面のメッセージに従ってください。

装置のIPアドレス	本製品のLAN側のIPアドレスです。 初期値は「192.168.2.1」です。
サブネットマスク	使用中のネットワークのサブネットマスクを入力します。 初期値は「255.255.255.0」です。
DHCPクライアントレンジ	DHCPサーバ機能を利用する場合、DHCPサーバがクライアントに自動的に割り付けるIPアドレスの範囲を指定します。開始アドレス～終了アドレスの範囲でクライアントにIPアドレスが自動的に割り当てられます。 クライアントの表示 をクリックすると、接続中のDHCPクライアントのリストが別ウィンドウで表示されます。
固定DHCP	固定DHCP設定 をクリックすることで、クライアントのMACアドレスと指定したいIPアドレスを関連付けて登録することができます。設定方法についてはP83「固定DHCP設定画面」をお読みください。

固定DHCP設定画面

DHCPサーバ機能を有効にしている場合、クライアントには自動的にIPアドレスが割り当てられます。しかし、クライアントのネットワーク機器によっては、特定のIPアドレスを割り当てたい場合があります。クライアントのMACアドレスと指定したいIPアドレスを関連付けて登録することができます。



画面左のメニューリストから[有線設定]→[LAN側設定]を選択し、[固定DHCP設定]をクリックします。

固定DHCP設定

固定DHCPを有効にする

IPアドレス:

MACアドレス:

メモ:

追加 キャンセル

固定DHCPリスト:

IPアドレス	MACアドレス	メモ	選択
選択したものを削除 全て削除 キャンセル			



設定を変更した場合

設定を変更した場合は、必ず 追加 をクリックして設定を保存してください。引き続き他の項目の設定を続ける場合は 戻る を、変更した内容をすぐに有効にする場合は 更新 をクリックし、画面のメッセージに従ってください。

●入力・設定画面の内容

固定DHCPを有効にする	この項目をチェックしている場合に、固定DHCPリストの内容が有効になります。チェックしていない場合は、リストに登録されていてもIPアドレスは固定されません。
IPアドレス	クライアントに割り当てるIPアドレスを入力します。
MACアドレス	IPアドレスを固定するクライアントのMACアドレスを入力します。
メモ	自由にコメントを入力できます。登録したクライアントを区別するのに便利です。

●固定DHCPリスト

入力画面で設定した内容をリストとして表示します。[選択]は、登録したクライアントの情報を削除する場合にチェックします。

●各ボタンの機能

追加	リストに新たにIPアドレスを固定するクライアントを追加します。
選択したものを削除	[選択]をチェックしたクライアントをリストから消去します。このボタンをクリックすると確認の画面が表示されますので、 [OK] をクリックします。
全て削除	リストのクライアントの設定をすべて消去します。このボタンをクリックすると確認の画面が表示されますので、 [OK] をクリックします。
キャンセル	[選択]のチェックをすべてクリアします。

固定DHCPの設定方法

- 1 [固定DHCPを有効にする]をチェックします。
- 2 クライアントに割り当てたいIPアドレスを入力します。「.」で区切る必要があります。
例 192.168.2.131
- 3 クライアントのMACアドレスを入力します。「:」で区切る必要はありません。
例 123456789012
- 4 必要に応じて[メモ]に、コメントを入力します。
- 5 **[追加]**をクリックすると「設定変更を反映します。」と表示されます。
- 6 登録するクライアントを追加する場合は **[戻る]** を、変更した内容をすぐに有効にする場合は **[更新]** をクリックし、画面のメッセージに従って操作します。

WAN側設定画面

本製品のWAN（インターネット）側の設定をします。[WAN側回線種別]で、DHCP・PPPoE・固定IP・マルチPPPoEのいずれを選択するかで、設定画面が異なります。

画面の表示

画面左のメニューリストから**[有線設定]**→**[WAN側設定]**を選択します。

●「DHCP」を選択した場合 ※画面イメージは上記参照

ホスト名	必要に応じて自由にホスト名を入力できます。
MTU値	MTU (Maximum Transmission Unit)、1回の転送で送信できるデータの最大値(単位はバイト)の値(1400~1492)を設定します。通常は変更する必要はありません。(初期値:1454)
DNSサーバの設定	<p>●DNSサーバのアドレスを自動的に取得する プロバイダより自動的にDNSサーバのアドレスを取得する場合に使用します。プロバイダより特に指示がない場合は、こちらを選択します。</p> <p>●次のDNSサーバを使用する プロバイダからDNSアドレスの指示があった場合に、こちらを選択します。DNSが1個の場合は「DNS1」に、2個の場合は「DNS1」「DNS2」にそれぞれアドレスを入力します。</p>
MACアドレスコピー	インターネット側に本製品ではなく、パソコンのMACアドレスを通知する場合は、ここにパソコンのMACアドレスを入力します。パソコンのMACアドレスによって接続認証を行うようなCATVインターネット接続サービスで使用します。



設定を変更した場合

設定を変更した場合は、必ず **[適用]** をクリックして設定を保存してください。引き続き他の項目の設定を続ける場合は **[戻る]** を、変更した内容をすぐに有効にする場合は **[更新]** をクリックし、画面のメッセージに従ってください。

●「PPPoE」を選択した場合

ユーザ名	プロバイダより提供されたユーザ名を入力します。 ユーザIDに「@」がある場合、ユーザ名のあとに、「@」とご契約のプロバイダの識別子を入力する必要があります。 (例) userID123 @ logitec.ent ユーザ名 プロバイダ識別子
パスワード	プロバイダより提供されたパスワードを入力します。
サービス名	必要に応じて自由にプロバイダ名などの名称を入力できます。
MTU値	MTU (Maximum Transmission Unit)、1回の転送で送信できるデータの最大値 (単位はバイト) の値 (1360~1492) を設定します。通常は変更する必要はありません。(初期値: 1454)
DNSサーバ設定	<p>●DNSサーバのアドレスを自動的に取得する プロバイダより自動的にDNSサーバのアドレスを取得する場合に使用します。プロバイダより特に指示がない場合は、こちらを選択します。</p> <p>●次のDNSサーバを使用する プロバイダからDNSアドレスの指示があった場合に、こちらを選択します。DNSが1個の場合は「DNS1」に、2個の場合は「DNS1」「DNS2」にそれぞれアドレスを入力します。</p>
MACアドレスコピー	インターネット側に本製品ではなく、パソコンのMACアドレスを通知する場合は、ここにパソコンのMACアドレスを入力します。パソコンのMACアドレスによって接続認証を行うようなCATVインターネット接続サービスで使用します。



設定を変更した場合

設定を変更した場合は、必ず **適用** をクリックして設定を保存してください。引き続き他の項目の設定を続ける場合は **戻る** を、変更した内容をすぐに有効にする場合は **更新** をクリックし、画面のメッセージに従ってください。

●「固定IP」を選択した場合

IPアドレス	プロバイダから提供された情報を入力します。
サブネットマスク	
デフォルトゲートウェイ	
MTU値	MTU (Maximum Transmission Unit)、1回の転送で送信できるデータの最大値 (単位はバイト) の値 (1400~1500) を設定します。通常は変更する必要はありません。(初期値: 1454)
DNS1	プロバイダからDNSアドレスの指示が1個しかない場合は、こちらにだけ入力します。
DNS2	プロバイダからDNSアドレスの指示が2個ある場合は、こちらにセカンダリのDNSアドレスを入力します。
MACアドレスコピー	インターネット側に本製品ではなく、パソコンのMACアドレスを通知する場合は、ここにパソコンのMACアドレスを入力します。パソコンのMACアドレスによって接続認証を行うようなCATVインターネット接続サービスで使用します。



設定を変更した場合

設定を変更した場合は、必ず **適用** をクリックして設定を保存してください。引き続き他の項目の設定を続ける場合は **戻る** を、変更した内容をすぐに有効にする場合は **更新** をクリックし、画面のメッセージに従ってください。

●マルチ PPPoE を選択した場合

WAN側設定

WAN側回線種別: マルチPPPoE ▾

ユーザ名:

パスワード:

サービス名:

MTU値: 1454 (1360-1492 bytes)

DNSサーバのアドレスを自動的に取得する

次のDNSサーバを使用する

DNS 1:

DNS 2:

MACアドレスコピー:

PPPoE 2 : NTTフレッツサービス用

ユーザ名:

パスワード:

サービス名:

MTU値: 1454 (1360-1492 bytes)

ユーザ名	プロバイダより提供されたユーザ名を入力します。 ユーザIDに「@」がある場合、ユーザ名のあとに、「@」とご契約のプロバイダの識別子を入力する必要があります。 (例) <u>userID123</u> @ logitec.ent ユーザ名 プロバイダ識別子
パスワード	プロバイダより提供されたパスワードを入力します。
サービス名	必要に応じて自由にプロバイダ名などの名称を入力できます。
MTU値	MTU (Maximum Transmission Unit)、1回の転送で送信できるデータの最大値 (単位はバイト) の値 (1360~1492) を設定します。通常は変更する必要はありません。(初期値: 1454)
DNSサーバ設定	<p>●DNSサーバのアドレスを自動的に取得する プロバイダより自動的にDNSサーバのアドレスを取得する場合に使用します。プロバイダより特に指示がない場合は、こちらを選択します。</p> <p>●次のDNSサーバを使用する プロバイダからDNSアドレスの指示があった場合に、こちらを選択します。DNSが1個の場合は「DNS1」に、2個の場合は「DNS1」「DNS2」にそれぞれアドレスを入力します。</p>

MACアドレスコピー	インターネット側に本製品ではなく、パソコンのMACアドレスを通知する場合は、ここにパソコンのMACアドレスを入力します。パソコンのMACアドレスによって接続認証を行うようなCATVインターネット接続サービスで使います。
PPPoE2 : NTTフレッツサービス用	下記の注記参照
ユーザ名	プロバイダより提供されたユーザ名を入力します。 ユーザIDに「@」がある場合、ユーザ名のあとに、「@」とご契約のプロバイダの識別子を入力する必要があります。 (例) <u>userID123</u> @ logitec.ent ユーザ名 プロバイダ識別子
パスワード	プロバイダより提供されたパスワードを入力します。
サービス名	必要に応じて自由にプロバイダ名などの名称を入力できます。
MTU値	MTU (Maximum Transmission Unit)、1回の転送で送信できるデータの最大値 (単位はバイト) の値 (1360~1492) を設定します。通常は変更する必要はありません。(初期値: 1454)

※フレッツ光ネクストのIPv4サイトには対応していません。



設定を変更した場合

設定を変更した場合は、必ず をクリックして設定を保存してください。引き続き他の項目の設定を続ける場合は を、変更した内容をすぐに有効にする場合は をクリックし、画面のメッセージに従ってください。

6 ファイアウォール設定

ポートフィルタ 画面

本製品に接続するクライアントがインターネットにアクセスする場合に使用するポートを制限できます。ここで登録したポートを使うインターネットサービスは利用できなくなります。

画面の表示

画面左のメニューリストから[ファイアウォール設定]→[ポートフィルタ]を選択します。

ポートフィルタ

ポートフィルタを有効にする

ポートレンジ: - プロトコル: Both ▼ メモ:

現在のポートフィルタテーブル:

ポートレンジ	プロトコル	メモ	選択



設定を変更した場合

設定を変更した場合は、必ず をクリックして設定を保存してください。

●入力・設定画面の内容

ポートフィルタを有効にする	ポートフィルタ機能を使用する場合はチェックします。
ポートレンジ	接続を制限するポート番号の範囲を指定します。1ポートだけの場合は、左側の入力枠にポート番号を入力します。
プロトコル	フィルタの対象とするプロトコルを選択します。(初期値: Both [両方])
メモ	自由にコメントを入力できます。登録したサービスの説明などに便利です。

●現在のポートフィルタテーブル

入力画面で設定した内容をリストとして表示します。[選択]は、登録したクライアントの情報を削除する場合にチェックします。

●各ボタンの機能

選択したものを削除	[選択]をチェックしたポート番号の範囲 をリストから消去します。このボタンをクリックすると確認の画面が表示されますので、 <input type="button" value="OK"/> をクリックします。
全て削除	リストのポート番号の範囲 の設定をすべて消去します。このボタンをクリックすると確認の画面が表示されますので、 <input type="button" value="OK"/> をクリックします。
キャンセル	[選択]のチェックをすべてクリアします。

ポートフィルタの設定方法

ポートフィルタ

ポートフィルタを有効にする

ポートレンジ: 137 - 139 プロトコル: Both ▼ メモ:

現在のポートフィルタテーブル:

ポートレンジ	プロトコル	メモ	選択

- 1 [ポートフィルタを有効にする]をチェックします。
- 2 [ポートレンジ]に対象となるサービスのポート番号の範囲を入力します。
- 3 [プロトコル]でプロトコルのタイプを選択します。
- 4 必要に応じて[メモ]に、コメントを入力します。
- 5 をクリックします。
- 6 登録するサービス(ポート番号)が複数ある場合は、①～⑤を繰り返します。

IPアドレスフィルタ 画面

本製品に接続するクライアントのうち、登録したIPアドレスを持つクライアントについて、インターネットへの接続を制限します。



注意

この機能を利用する場合で本製品のDHCPサーバ機能を有効にしているときは、P83の【固定DHCP設定画面】で、IPアドレスフィルタリングの対象となるクライアントのIPアドレスを固定するようにしてください。DHCPサーバ機能により動的にIPアドレスが変更されると、正しくフィルタリングすることができません。



画面の表示

画面左のメニューリストから【ファイアウォール設定】→【IPアドレスフィルタ】を選択します。



設定を変更した場合

設定を変更した場合は、必ず【適用】をクリックして設定を保存してください。

●入力・設定画面の内容

IPアドレスフィルタを有効にする	IPアドレスフィルタ機能を使用する場合はチェックします。
ローカルIPアドレス	インターネットへの接続を拒否するクライアントのIPアドレスを入力します。
プロトコル	フィルタの対象とするプロトコルを選択します。(初期値：Both [両方]) ※[Both]を選択した場合は、そのクライアントはインターネットへの接続ができなくなります。
メモ	自由にコメントを入力できます。登録したクライアントを区別するのに便利です。

●現在のIPアドレスフィルタテーブル

入力画面で設定した内容をリストとして表示します。[選択]は、登録したクライアントの情報を削除する場合にチェックします。

●各ボタンの機能

選択したものを削除	[選択]をチェックしたクライアントをリストから消去します。このボタンをクリックすると確認の画面が表示されますので、【OK】をクリックします。
全て削除	リストのクライアントの設定をすべて消去します。このボタンをクリックすると確認の画面が表示されますので、【OK】をクリックします。
キャンセル	[選択]のチェックをすべてクリアします。

IPアドレスフィルタの設定方法

- 1 [IPアドレスフィルタを有効にする]をチェックします。
- 2 [ローカルIPアドレス]に対象となるクライアントのIPアドレスを入力します。「.」で区切る必要があります。
例 192.168.2.131
- 3 [プロトコル]でプロトコルのタイプを選択します。
- 4 必要に応じて[メモ]に、コメントを入力します。
- 5 【適用】をクリックします。
- 6 登録するクライアントが複数ある場合は、①～⑤を繰り返します。

MACアドレスフィルタ 画面

本製品に接続するクライアントのアクセスをコントロールします。ここに登録されたMACアドレスを持つクライアントは、本製品に接続することができなくなります。第三者の不正アクセスの防止などに役立ちます。

画面の表示

左のメニューリストから[ファイアウォール設定]→[MACアドレスフィルタ]を選択します。

MACアドレスフィルタ

MACアドレスフィルタを有効にする

MACアドレス: メモ:

現在の設定:

MACアドレス	メモ	選択



設定を変更した場合

設定を変更した場合は、必ず をクリックして設定を保存してください。

●入力・設定画面の内容

MACアドレスフィルタを有効にする	MACアドレスフィルタ機能を使用する場合はチェックします。
MACアドレス	本製品への接続を拒否するクライアントのMACアドレスを入力します。
メモ	自由にコメントを入力できます。登録したクライアントを区別するのに便利です。

●現在の設定

入力画面で設定した内容をリストとして表示します。[選択]は、登録したクライアントの情報を削除する場合にチェックします。

●各ボタンの機能

選択したものを削除	[選択]をチェックしたクライアントをリストから消去します。このボタンをクリックすると確認の画面が表示されますので、 <input type="button" value="OK"/> をクリックします。
全て削除	リストのクライアントをすべて消去します。このボタンをクリックすると確認の画面が表示されますので、 <input type="button" value="OK"/> をクリックします。
キャンセル	[選択]のチェックをすべてクリアします。

クライアントの登録方法

MACアドレスフィルタ

MACアドレスフィルタを有効にする

MACアドレス: メモ:

現在の設定:

MACアドレス	メモ	選択

- 1 [MACアドレスフィルタを有効にする]をチェックします。
- 2 クライアントのMACアドレスを入力します。「:」で区切る必要はありません。
例 1234567890gh
- 3 必要に応じて[メモ]に、コメントを入力します。
- 4 をクリックします。
- 5 登録するクライアントが複数ある場合は、①～④を繰り返します。

ポートフォワーディング画面

ポート転送（ポートフォワーディング）機能を設定します。通常NAT変換を利用するルータでは、WAN（インターネット）側からLAN上のコンピュータにアクセスすることはできませんが、この機能を利用することで、LAN上にある指定されたコンピュータをWAN側に開放することができます。



注意

この機能を利用する場合で本製品のDHCPサーバ機能を有効にしているときは、P83の【固定DHCP設定画面】で、ポートフォワーディングの対象となるクライアントのIPアドレスを固定するようにしてください。DHCPサーバ機能により動的にIPアドレスが変更されると、意図しないコンピュータがWAN側に開放される恐れがあります。



画面の表示

画面左のメニューリストから【ファイアウォール設定】→【ポート転送】を選択します。



設定を変更した場合

設定を変更した場合は、必ず【適用】をクリックして設定を保存してください。

●入力・設定画面の内容

ポートフォワーディングを有効にする	ポートフォワーディング機能を使用する場合はチェックします。
IPアドレス	ポートフォワーディングの対象となるクライアントのIPアドレスを入力します。
プロトコル	プロトコルを選択します。（初期値：Both [両方]）
ポート範囲	インターネット側から見た送信先のポート番号の範囲を入力します。
メモ	自由にコメントを入力できます。登録したクライアントを区別するのに便利です。

●現在のポートフィルタテーブル

入力画面で設定した内容をリストとして表示します。[選択]は、登録したクライアントの情報を削除する場合にチェックします。

●各ボタンの機能

選択したものを削除	[選択]をチェックしたクライアントをリストから消去します。このボタンをクリックすると確認の画面が表示されますので、【OK】をクリックします。
全て削除	リストのクライアントの設定をすべて消去します。このボタンをクリックすると確認の画面が表示されますので、【OK】をクリックします。
キャンセル	[選択]のチェックをすべてクリアします。

ポートフォワーディングの設定方法

- 1 [ポートフォワーディングを有効にする]をチェックします。
- 2 [IPアドレス]に対象となるクライアントのIPアドレスを入力します。「.」で区切る必要があります。
例 192.168.2.131
- 3 [プロトコル]でプロトコルのタイプを選択します。
- 4 [ポート範囲]に対象となるポート番号の範囲を入力します。
- 5 必要に応じて[メモ]に、コメントを入力します。
- 6 【適用】をクリックします。
- 7 登録するクライアントが複数ある場合は、①～⑥を繰り返します。

URLフィルタ 画面

特定のWebサイトのURLを設定することで、ホームページの閲覧を拒否します。

画面の
表示

画面左のメニューリストから[ファイアウォール設定]→[URLブロック]を選択します。



設定を変更した場合

設定を変更した場合は、必ず **適用** をクリックして設定を保存してください。

●入力・設定画面の内容

URLフィルタリングを有効にする	URLフィルタを使用する場合はチェックします。
URLアドレス	接続を拒否するWebサイトのURLを入力します。

●現在のURLフィルタテーブル

入力画面で設定した内容をリストとして表示します。[選択]は、登録したURLの情報を削除する場合にチェックします。

●各ボタンの機能

選択したものを削除	[選択]をチェックしたURLをリストから消去します。このボタンをクリックすると確認の画面が表示されますので、 OK をクリックします。
全て削除	リストのURLの設定をすべて消去します。このボタンをクリックすると確認の画面が表示されますので、 OK をクリックします。
キャンセル	[選択]のチェックをすべてクリアします。

URLフィルタの設定方法

- 1 [URLフィルタリングを有効にする]をチェックします。
- 2 [URLアドレス]に対象となるWebサイトのURLを入力します。
- 3 **適用** をクリックします。
- 4 登録するURLが複数ある場合は、**1**～**3**を繰り返します。

IPv6ブリッジ画面

プロバイダから提供されるIPv6サービスを利用できるようにする「IPv6ブリッジ」機能を有効にするか、無効にするかを選択します。



画面左のメニューリストから[ファイアウォール設定]→[IPv6ブリッジ]を選択します。



設定を変更した場合

設定を変更した場合は、必ず **適用** をクリックして設定を保存してください。引き続き他の項目の設定を続ける場合は **戻る** を、変更した内容をすぐに有効にする場合は **更新** をクリックし、画面のメッセージに従ってください。

●IPv6ブリッジ

IPv6ブリッジ	プロバイダから提供されるIPv6サービスを、本製品を経由して利用できるようにする「IPv6ブリッジ」機能の有効/無効を設定します。IPv6サービスを利用する場合でも、本製品を経由しない場合は無効にしてもかまいません。(初期値：有効)。
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

DMZ画面

通常、NAT変換を利用するルータでは、WAN(インターネット)側からLAN上のパソコンにアクセスすることはできません。DMZ機能を使用すると、指定したコンピュータにWAN側からアクセスできるようになります。これにより、LAN上からは通常使用できない双方向通信を利用したサービスを利用できます。



画面左のメニューリストから[ファイアウォール設定]→[DMZ]を選択します。



設定を変更した場合

設定を変更した場合は、必ず **適用** をクリックして設定を保存してください。引き続き他の項目の設定を続ける場合は **戻る** を、変更した内容をすぐに有効にする場合は **更新** をクリックし、画面のメッセージに従ってください。

●入力・設定画面の内容

DMZを有効にする	DMZ機能を使用する場合はチェックします。
DMZホストIPアドレス	インターネット(外部)に公開するWAN側IPアドレスを選択します。「。」で区切る必要があります。 例 192.168.2.131

7 QoS

QoS 画面

QoS (Quality of Service) は特定の通信について、あらかじめ使用する帯域を予約しておくことで、その通信の速度を保証する機能です。例えばストリーミングのように一定の転送速度が確保されないと実用的でないようなサービスを利用するとき有効です。

画面の表示

画面左のメニューリストから [QoS] を選択します。



設定を変更した場合

設定を変更した場合は、必ず [適用] をクリックして設定を保存してください。

●入力・設定画面の内容

Qosを有効にする	Qos機能を使用する場合はチェックします。
アップロード速度を自動で設定する	アップロードで確保する全体の帯域幅を自動で設定する場合はチェックします。
アップロード速度を手動で設定する	[アップロード速度を自動で設定する]のチェックを外すことで、速度を手動で設定できます。
ダウンロード速度を自動で設定する	ダウンロードで確保する全体の帯域幅を自動で設定する場合はチェックします。
ダウンロード速度を手動で設定する	[ダウンロード速度を自動で設定する]のチェックを外すことで、速度を手動で設定できます。

●現在のQoSルールテーブル

入力画面で設定した内容をリストとして表示します。[選択]は、登録したルールの情報を削除する場合にチェックします。

●各ボタンの機能

選択したものを削除	[選択]をチェックしたルールをリストから消去します。このボタンをクリックすると確認の画面が表示されますので、[OK]をクリックします。
全て削除	リストのルールの設定をすべて消去します。このボタンをクリックすると確認の画面が表示されますので、[OK]をクリックします。
キャンセル	[選択]のチェックをすべてクリアします。

ルールの作成方法

QoSルール設定:

アドレスタイプ: IP MAC

ローカルIPアドレス: 192.168.2.111 - 192.168.2.111

MACアドレス: _____

モード: 最低保証帯域 ▼

アップロード帯域幅(Kbps): 0

ダウンロード帯域幅(Kbps): 20000

メモ: streaming

- 1 [QoSを有効にする]をチェックします。
- 2 アップロードで確保する全体の帯域幅または、ダウンロードで確保する全体の帯域幅を設定します。自動設定、手動設定、いずれかの方法で設定できます。
- 3 [QoSルール設定]でルールの内容を設定します。項目の内容については、以下の一覧を参照してください。
- 4 設定が終われば、 をクリックします。
- 5 必要に応じて[メモ]に、コメントを入力します。
- 6 をクリックします。
- 7 登録するルールが複数ある場合は、①～⑥を繰り返します。

アドレスタイプ	「IPアドレス」か、「MACアドレス」のいずれかを選択します。
ローカルIPアドレス	このルールを適用するクライアントのIPアドレス範囲を入力します。対象が1台の場合は、左右に同じIPアドレスを入力します。[アドレスタイプ]で「IP」を選択した場合のみ、入力可能です。
MACアドレス	このルールを適用するクライアントのMACアドレス範囲を入力します。[アドレスタイプ]で「MAC」を選択した場合のみ、入力可能です。
モード	最低保証帯域（ギャランティー）か、最大帯域制限（最大）のいずれかを選択します。
アップロード帯域幅(Kbps)	アップロードで確保する帯域幅を入力します。
ダウンロード帯域幅(Kbps)	ダウンロードで確保する帯域幅を入力します。
メモ	自由にコメントを入力できます。

8 管理ツール

機器のステータス画面

本製品に関するさまざまなステータス情報を確認することができます。

画面の表示

画面左のメニューリストから[管理ツール]→[機器のステータス]を選択します。

機器のステータス

システム	
Uptime	0day:0h:1m:10s
ファームウェア Ver.	v1.02
Build Time	Fri Jul 1 08:17:47 CST 2011
無線設定状況	
モード	AP
帯域	2.4 GHz (B+G+N)
SSID	logitec50
チャンネル	13
暗号化	WPA2 Mixed
BSSID	00:08:54:6a:f8:0e
関連クライアント数	0
SSID2設定状況	
帯域	2.4 GHz (B+G+N)
SSID	logitec2nd50
暗号化	WEP 128bits
BSSID	00:e0:4c:81:96:c2
関連クライアント数	0
LAN側設定	
IPアドレス	192.168.2.1
サブネットマスク	255.255.255.0
DHCP	Server
MACアドレス	00:08:54:6a:f8:0e
WAN側設定	
IPアドレス取得方法	Getting IP from DHCP server...
IPアドレス	0.0.0.0
サブネットマスク	0.0.0.0
デフォルトゲートウェイ	0.0.0.0
MACアドレス	00:08:54:6a:f8:0f

●システム

Uptime	本製品の起動後の経過時間を表示します。電源を切ったり、再起動するとリセットされます。
ファームウェア Ver.	ファームウェアのバージョンを表示します。
Build Time	ファームウェアの作成日を表示します。

●無線設定 状況

モード	現在の無線における通信モードを表示します。
帯域	無線LANで使用している周波数帯域と、使用中の無線規格を表示します。
SSID	現在使用中のSSIDを表示します。
チャンネル	現在のチャンネルモードを表示します。
暗号化	現在使用中の暗号化設定を表示します。
BSSID	BSSIDを表示します。
関連クライアント数	このSSIDに接続している無線子機の数です。

●SSID2設定 状況

帯域	無線LANで使用している周波数帯域と、使用中の無線規格を表示します。
SSID	現在使用中のマルチSSIDのSSIDを表示します。
暗号化	現在使用中の暗号化設定を表示します。
BSSID	BSSIDを表示します。
関連クライアント数	このSSIDに接続している無線子機の数です。

●LAN側設定

IPアドレス	現在のIPアドレスを表示します。
サブネットマスク	現在のサブネットマスクを表示します。
DHCP	DHCP機能の状態を表示します。「Server」と表示されている場合、DHCPサーバ機能が有効になっています。
MACアドレス	本製品のLAN側のMACアドレスを表示します。

●WAN側設定

IPアドレス取得方法	WAN側のIPアドレス取得方法を表示します。
IPアドレス	現在のIPアドレスを表示します。
サブネットマスク	現在のサブネットマスクを表示します。
デフォルトゲートウェイ	現在のデフォルトゲートウェイを表示します。
MACアドレス	本製品のWAN側のMACアドレスを表示します。

統計画面

各種統計情報を表示します。[更新]をクリックすると統計情報を最新の状態に更新します。

画面の
表示

画面左のメニューリストから[管理ツール]→[統計]を選択します。

統計		
Wireless LAN	Sent Packets	1350
	Received Packets	2265
SSID2	Sent Packets	1337
	Received Packets	2262
Ethernet LAN	Sent Packets	8310
	Received Packets	11552
Ethernet WAN	Sent Packets	1331
	Received Packets	0

更新

Wireless LAN	本製品から見た無線LANにおける、パケット送信数 (Sent Packets) と受信パケット数 (Received Packets) を表示します。
SSID2	本製品から見たマルチSSID機能の2つめのSSIDにおける、パケット送信数 (Sent Packets) と受信パケット数 (Received Packets) を表示します。
Ethernet LAN	本製品から見たLAN側における、パケット送信数 (Sent Packets) と受信パケット数 (Received Packets) を表示します。
Ethernet WAN	本製品から見たWAN側における、パケット送信数 (Sent Packets) と受信パケット数 (Received Packets) を表示します。

DDNS 設定 画面

DDNS (ダイナミック DNS) を利用すると、WAN 側が固定 IP アドレスでなくても、ホスト名を使ってサーバなどを利用できるようになります。この機能を利用するには、ダイナミック DNS のサービス提供者に登録する必要があります。ダイナミック DNS はサービスリストに表示されるサービスでご利用いただけます。



●あらかじめDDNSサービスに登録しておいてください

DDNS サイトにアクセスしてユーザー登録し、ドメイン名やアカウントなどを取得しておいてください。

●DDNSサービスを利用するにあたって

- DDNS サービスへの登録については、弊社のサポート対象外となります。登録に関しては、一切責任を負いかねます。
- Clear-net (クリアネットサービス) とは、対象の弊社製品をユーザ登録してご利用いただいている方に無償で提供されるダイナミック DNS サービスです。クリアネットサービスへの登録については、弊社ホームページで詳細をご確認のうえ、ご利用ください。
- DDNS サービスによっては、定期的に更新をしないと登録が削除されてしまうことがあります。登録の更新は、本製品がインターネットに接続されているときに自動的におこなわれるほか、手動で更新する場合があります。更新期間などの詳細はご利用になる DDNS サイトをご覧ください。



画面左のメニューリストから [管理ツール] → [DDNS] を選択します。



設定を変更した場合

設定を変更した場合は、必ず [適用] をクリックして設定を保存してください。

●入力・設定画面の内容

DDNSを有効にする	ダイナミック DNS を利用する場合はチェックします。
プロバイダ	リストから登録したサービスを選択します。
ドメイン名	登録したドメイン名を入力します。
アカウント	登録したアカウントを入力します。DDNS サービスによってはアカウントが Eメールアドレスの場合があります。
パスワード/キー	設定したパスワードまたはキーを入力します。

ログ画面

本製品のシステムログを記録することができます。

画面の
表示

画面左のメニューリストから[管理ツール]→[ログ]を選択します。



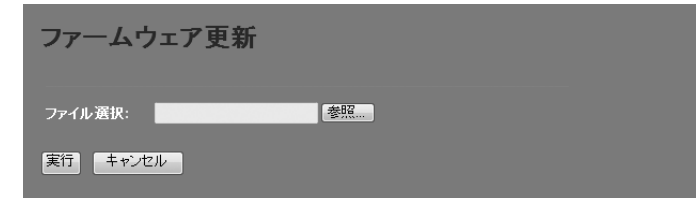
ログ機能を有効にする	この項目をチェックすると、ログの取得を有効にします。 (初期値：オフ=ログを取得しない) 有効にした場合は、ログの取得内容を選択します。 システムログ：システム全体のログを取得します。 無線ログ：無線LANに関するログのみを取得します。
適用	上記項目の設定を変更した場合にクリックします。 画面のメッセージに従って変更内容を保存してください。
更新	ログの内容を更新します。
キャンセル	記録されているログを消去します。

ファームウェア更新画面

機能の充実や改良により、本製品のファームウェアをバージョンアップすることがあります。ファームウェアは、弊社Webサイトのサポートページよりダウンロードできます。

画面の
表示

左のメニューリストから[管理ツール]→[ファームウェア更新]を選択します。



ファームウェアの更新手順



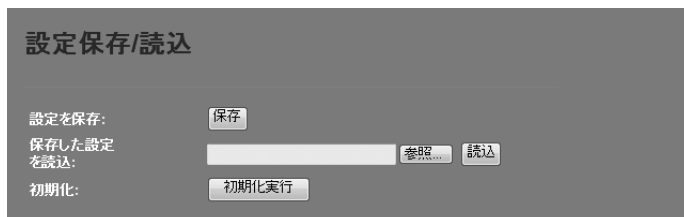
- ① 弊社Webサイトなどからあらかじめ最新のファームウェアをダウンロードして、デスクトップなどに保存しておきます。
 - ・ダウンロード前に注意事項などがないか、ダウンロードページでご確認ください。
- ② [参照] をクリックします。
- ③ <アップロードするファイルの選択>画面が表示されますので、ダウンロードしたファイルを指定します。
- ④ [実行] をクリックします。
- ⑤ アップデートを確認するメッセージが表示されますので、[OK] をクリックします。
- ⑥ アップデート中の注意事項が表示されますので内容を確認のうえ、[OK] をクリックします。
- ⑦ アップデートが完了すると「アップデートが完了しました。」と表示されます。
- ⑧ 本製品背面にあるDCジャックからDCプラグを抜き差しして電源を入れ直します。本製品が再起動し、新しいファームウェアで動作するようになります。

設定保存/読込 画面

本製品の設定情報をファイルとして保存できます。保存したファイルを読み込むことで、本製品の状態を、設定情報を保存した時点の状態にすることができます。また、本製品の設定内容を初期値(工場出荷時の状態)に戻すことができます。

画面の
表示

画面左のメニューリストから[管理ツール]→[設定保存/読込]を選択します。



設定の保存方法



- ① [保存] をクリックします
- ② <ファイルのダウンロード>画面が表示されますので、[保存] をクリックします。
- ③ <名前を付けて保存>画面が表示されますので、ファイルの保存場所を指定し、[保存] をクリックします。指定した場所に「config.dat」ファイルが保存されます。
- ④ <ダウンロードの完了>画面が表示されますので、[閉じる] をクリックします。<設定保存/読込>画面に戻ります。

設定の読み込み方法



- ① [保存した設定を読込]の [参照] をクリックします
- ② <アップロードするファイルの選択>画面が表示されますので、設定ファイルを指定します。
- ③ [読込] をクリックします。
- ④ しばらくすると「Update successfly!」と表示され、待ち時間が表示されます。0秒になると、自動的にインターネット接続ウィザードのトップ画面が表示されます。

設定を初期化する(工場出荷時の状態に戻す)

本製品の設定を初期化(工場出荷時の状態に戻す)します。ご購入後に変更した設定はすべて初期値に戻ります。必要に応じて初期化の前に設定をファイルに保存してください。



- ① [初期化]の [初期化実行] をクリックします。
- ② 工場出荷時の状態に戻してよいか、確認のメッセージが表示されますので [OK] をクリックします。
- ③ しばらくすると「装置の設定を読み込みました!」と表示され、待ち時間が表示されます。0秒になると、自動的に<機器のステータス>画面が表示されます。

パスワード設定画面

本製品の設定ユーティリティにログインするための、ユーザー名とパスワードを設定/変更します。

画面の表示

画面左のメニューリストから[管理ツール]→[パスワード設定]を選択します。

注意

●パスワードの変更をお勧めします

設定ユーティリティへのパスワードが初期値のままだと、各種設定情報を自由に閲覧したり、パスワードを変更したりすることができます。設定ユーティリティのログインパスワードの変更をお勧めします。

●変更後のユーザー名とパスワードを忘れないでください

変更後のユーザー名とパスワードを忘れると、本製品を初期化する必要があります。すべての設定が初期化されますので、ユーザー名、パスワードは忘れないようにしてください。

設定の手順

- ① [ユーザ名]に、新しく設定するユーザー名を入力します。
- ② [パスワード]に、新しく設定するパスワードを入力します。
- ③ [新パスワード再入力]に、もう一度、新しいパスワードを入力します。
- ④ [適用]をクリックします
- ⑤ 「Change setting successfully!」と表示され、待ち時間が表示されます。0秒になると、自動的に認証画面が表示されます。
- ⑥ 新しく設定したユーザー名とパスワードを入力し、[OK]をクリックします。
 - ・ インターネット接続ウィザードのトップ画面が表示されます。

9

APモードを使用する(動作モード選択)

本製品のルータ機能を無効にし、無線AP(アクセスポイント)の機能だけを使用できます。ただし、本製品は上位にルータ機能内蔵モデムがあった場合でも、通常はAPモードに変更することなく正常にご使用いただけます。プロバイダから以下のような指示があった場合に限り、次の手順で本製品のルータ機能を使用しないようにしてください。

- ・ ルータ機能を無効にする
- ・ 無線アクセスポイント(無線ハブ)として使用する
- ・ ブリッジ接続で使用する

注意

設定を変更する前に、本製品とブロードバンドモデムを接続しているLANケーブルをはずしてください。

注意

はじめて本製品を使用する前にAPモードに変更したい場合は、パソコンと本製品のLANポートをLANケーブルで接続し、設定ユーティリティを起動してから、以下の作業をおこなってください。接続したLANケーブルは、APモードへの変更が完了し、電源を切ったあとで本製品のLANポートからはずしてください。

画面の表示

画面左のメニューリストから[動作モード選択]を選択します。

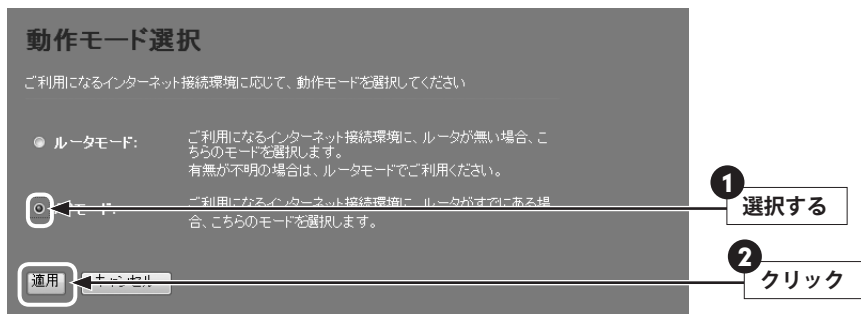
- ・ (動作モード選択)画面が表示されます。

設定の変更方法

1 本製品とブロードバンドモデムを接続するLANケーブルがはずれていることを確認します。

- 本製品とブロードバンドモデムが接続されたままでは、設定を変更できません。

2 「APモード」を選択し、「適用」をクリックします。



3 「設定変更を反映します。」と表示されます。

設定変更を反映します。

再起動が完了するまで、絶対に電源を切らないでください。

あと 29 秒お待ちください...

- 待ち時間が表示され、0秒になると自動的に〈機器のステータス〉画面が表示されます。

4 をクリックして設定ユーティリティを終了します。

5 本製品の電源を切ります。

6 ブロードバンドモデムからのLANケーブルを、本製品のLANポートに接続します。

- 本製品とパソコンを有線で接続している場合は、パソコンと本製品を接続しているLANケーブルを本製品のLANポートからはずしたうえで、ブロードバンドモデムからのLANケーブルを接続してください。
- WANポートは、有線LANポートとして使用できます。有線パソコンの接続などにご利用ください。

7 ブロードバンドモデムの電源を入れます。

8 本製品の電源を入れます。



注意

- 本製品のDHCP機能を無効にしたため、設定後、本製品の設定ユーティリティに接続する場合は、IPアドレスが「192.168.2.xxx」のネットワークに接続できる環境が必要になります。
※なお、本製品のIPアドレスは「192.168.2.1 (初期値)」です。
- APモード時のWANポートは、LANポートとして機能しますので、有線パソコンの接続などにご利用ください。

10 無線スケジュール機能を使用する

本製品の無線スケジュール機能を使用すると、設定した時間帯で無線LAN機能がオフになり、消費電力を抑えることができます。

画面の表示

画面左のメニューリストから[無線設定]→[無線スケジュール設定]を選択します。



設定を変更した場合

設定を変更した場合は、必ず **適用** をクリックして設定を保存してください。引き続き他の項目の設定を続ける場合は **戻る** を、変更した内容をすぐに有効にする場合は **更新** をクリックし、画面のメッセージに従ってください。

無線スケジュール機能を有効にする	無線スケジュール機能を使用する場合にチェックします。(初期値：オフ)
曜日	無線スケジュール機能を設定する曜日を選択します。
時間	動作モードを設定する時間帯を選択します。各曜日に個別に設定することはできません。選択したすべての曜日に、同じ時間帯を設定します。

Appendix

付録編

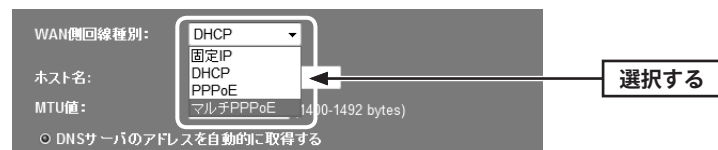
1 フレッツ・スクウェア使用時の設定

本製品でNTT東日本、NTT西日本の「フレッツ・スクウェア」サービスを利用する場合の設定手順を説明します。このマニュアルのP88「●マルチPPPoEを選択した場合」や、NTT東日本またはNTT西日本のホームページにある説明もご参照ください。

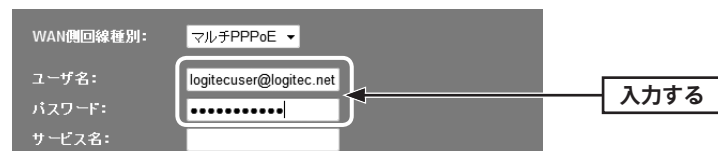
ここでは、「WAN側回線種別」の下の入力欄に、通常のインターネット接続で使用するアカウントを、「PPPoE 2：NTTフレッツサービス用」の入力欄に、フレッツ・スクウェアで使用するアカウントを登録する例を説明します。

1 設定ユーティリティで、画面左のメニューリストから[有線設定]→[WAN側設定]を選択します(→P88「●マルチPPPoEを選択した場合」)。

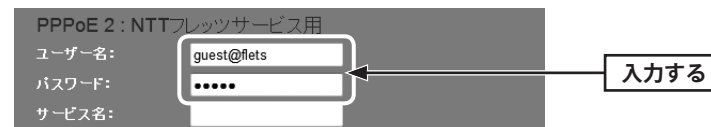
2 「WAN側回線種別」で[マルチPPPoE]を選択します。画面が2つのアカウントを登録可能な画面に切り替わります。



3 「WAN側回線種別」の下の入力欄に、通常のインターネット接続で使用するアカウント(ユーザー名とパスワード)を登録します。



4 引き続き「PPPoE 2：NTTフレッツサービス用」の入力欄に、フレッツ・スクウェアで使用するアカウントを登録します。

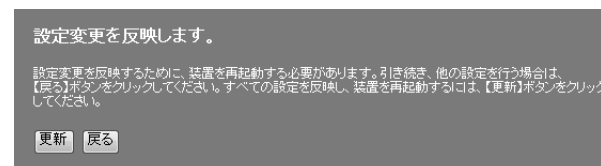


NTT東日本	ユーザー名: guest@fleets	パスワード: guest
NTT西日本	ユーザー名: guest	パスワード: fleets

5 すべての設定が終われば、「適用」をクリックします。

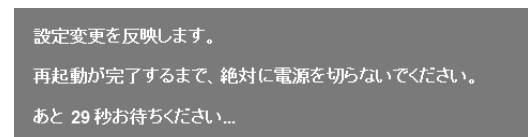


6 「設定変更を反映します。」と表示されます。



- 他の設定を続ける場合→「戻る」をクリックします。引き続き他の項目を設定します。
- 変更した設定を保存して有効にする場合→「更新」をクリックし、手順**7**へ進みます。

7 待ち時間が表示され、0秒になると自動的に<WAN側設定>画面に戻ります。



8 ブラウザをいったん閉じます。フレッツ・スクウェアにアクセスするには、Webブラウザのアドレス入力欄に、「http://www.fleets/」と入力し、ホームページに接続します。

2 こんなときは



本製品に付属の紙版マニュアル「かんたんセットアップガイド[補足編]FAQ」のP4「こんなときには」もご参照ください。

無線LAN関係のトラブル

添付CD-ROMのセットアップメニューから閲覧できる「FAQ」もご参照ください。

●無線LANが繋がらない。

- ①ネットワーク設定で実際のネットワーク環境に応じたプロトコル、サービスなどの設定をしていますか？ プロトコル(TCP/IPなど)、クライアント(Microsoft Networkクライアントなど)、サービス(Microsoft Network共有サービスなど)を環境に応じて設定する必要があります。
 - ②ルータなどのDHCPサーバ機能を使用せずにインターネットプロトコル「TCP/IP」を利用する場合は、各パソコンに手動でIPアドレスを割り当てる必要があります。
- ◆CATVインターネットなどでは、回線事業者からIPアドレスを指定される場合があります。その場合は指示に従ってください。
- ③本製品のセキュリティ設定やアクセスポイントのMACアドレスフィルタリング設定は正しいですか？ セキュリティ設定は、無線LANネットワーク上にあるすべての機器で同じ設定にする必要があります。また、MACアドレスフィルタリングを設定していると、設定条件によっては無線LANに接続できない場合があります。

●セキュリティ機能を設定後に無線LANが繋がらない。

- ①セキュリティ設定は、同じ無線LANネットワーク上にあるすべての機器で同じ設定になっている必要があります。設定が少しでも異なる機器はネットワークに接続することができません。
 - ②各セキュリティ機能で使用するパスワードや暗号などの文字列は大文字と小文字が区別されたりします。また、意味のない文字列は入力ミスが発生しやすいので特に注意して確認してください。
- ◆セキュリティ設定でのトラブルのほとんどがスペルミスや設定ミスですのでよく確認してください。
- ③設定を変更した直後や設定が正しい場合は、アクセスポイントを含め、すべての機器の電源を入れ直してから接続してみてください。

●WPSが繋がらない。

- ①WPSランプが速く点滅している場合は、エラーが発生している可能性があります。もう一度初めからやりなおしてください。繰り返し接続に失敗するようであれば、他の接続方法を試してみてください。
- ②入力したPINコードが誤っていることがあります。再度PINコードを自動生成して接続してください。繰り返し接続に失敗するようであれば、他の接続方法を試してみてください。

共通のトラブル

●インターネットに接続できない。

- ① TCP/IP プロトコルが正しく設定されているかを確認してください。
〈ネットワーク〉画面で TCP/IP プロトコルが設定されているかを調べてください。見あたらない場合は、TCP/IP プロトコルを追加してください。
- ② DHCP サーバ機能を使用していない場合は、IP アドレスを手動で割り当ててください。
TCP/IP のプロパティにある〈IP アドレス〉タブで設定します。
- ③ TCP/IP プロトコルの設定が正しいかを確認してください。
プロバイダによって、IP アドレスを自動取得する場合と固定 IP アドレスを指定する場合があります。プロバイダから提供されるマニュアルで確認の上、正しい設定をおこなってください。
- ④ プロバイダから提供された情報をすべて設定したかを確認してください。
IP アドレス以外にも、識別情報の指定などが必要なことがあります。プロバイダから提供されるマニュアルで確認の上、正しい設定をおこなってください。

●本製品の設定は正常に終了したが、ネットワークパソコンを開くと「ネットワークを参照できません。」のエラーが表示される。

- ① 正常にネットワークの設定ができていない可能性があります。もう一度、デバイスマネージャなどで本製品の設定を確認し、OS 側が本製品を正常に認識しているか調べてください。

●他のパソコンのファイルやプリンタの共有ができない。

- ① ネットワーク設定をしましたか？
無線 LAN が正常に動作していてもネットワーク設定ができていないとファイルの共有やプリンタの共有はできません。

3 パソコンの IP アドレスの確認方法

本製品の設定ユーティリティにアクセスできない場合に、本製品の設定ユーティリティにアクセスするパソコンの IP アドレスがどのようになっているかを確認する方法を説明します。ここで説明している IP アドレスの確認方法は、本製品に接続する有線クライアントおよび無線子機の IP アドレスを確認するときにも使用できます。

パソコンの IP アドレスを表示する

Windows 7/Vista の場合 ※画面は Windows Vista の例です。

- ① [スタート]→[すべてのプログラム]→[アクセサリ]→[コマンドプロンプト]の順にクリックします。
- ② 〈コマンドプロンプト〉画面が表示されます。「>」のあとにカーソルが点滅している状態で、キーボードから「ipconfig」と入力し、[Enter]キーを押します。

```
Microsoft Windows [Version 6.0.60000]
Copyright (c) 2006 Microsoft Corporation. All rights reserved.

C:\Users\master>ipconfig
```

※入力する文字は半角英数字です。入力ミスをした場合は、[BackSpace]キーを押して間違った文字のところまで削除して戻ります。このとき、途中の文字だけを削除することはできません。

「xxx」は、内部コマンド…と表示された場合は、入力ミスです。もう一度入力してください。

- ③ 「イーサネット アダプタ ローカル エリア接続※」の「IPv4 アドレス」に現在の IP アドレス「192.168.xxx.xxx」が表示されます (xxx は任意の数字)。

```
イーサネット アダプタ ローカル エリア接続:

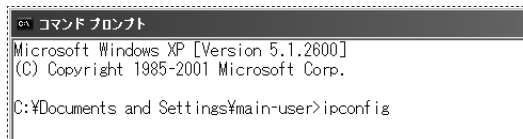
接続固有の DNS サフィックス . . . . . :
リンクローカル IPv6 アドレス . . . . . : fe80::b0ac:15cf:beb9:d431%8
IPv4 アドレス . . . . . : 192.168.2.100
サブネット マスク . . . . . : 255.255.255.0
デフォルト ゲートウェイ . . . . . : 192.168.2.1
```

※本製品に接続しているクライアントの種類によって表記は異なります。

- ④ 本製品を工場出荷状態 (初期値) で使用している場合に、パソコンで表示される IP アドレスの内容については、P126 「工場出荷時での表示結果」をお読みください。

Windows XP/2000の場合

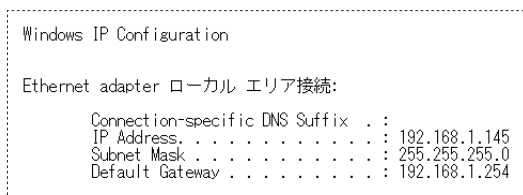
- ① [スタート]→[(すべての) プログラム]→[アクセサリ]→[コマンドプロンプト]の順にクリックします。
- ② <コマンドプロンプト>画面が表示されます。「>」あとにカーソルが点滅している状態で、キーボードから「ipconfig」と入力し、[Enter]キーを押します。



※入力する文字は半角英数字です。入力ミスをした場合は、[BackSpace]キーを押して間違った文字のところまで削除して戻ります。このとき、途中の文字だけを削除することはできません。

「"xxx"は、内部コマンド…」と表示された場合は、入力ミスです。もう一度入力してください。

- ③ 「イーサネット アダプタ ローカル エリア接続※」の「IP Address」に現在のIPアドレス「192.168.xxx.xxx」が表示されます(xxxは任意の数字)。



※本製品に接続しているクライアントの種類によって表記は異なります。

- ④ 本製品を工場出荷状態(初期値)で使用している場合に、パソコンで表示されるIPアドレスの内容については、P126「工場出荷時での表示結果」をお読みください。

工場出荷時での表示結果

本製品から正常にIPアドレスが割り当てられていると、各パソコンのIPアドレスは「192.168.2.xxx」と表示されます。「xxx」は任意の数字(初期値:100~200のいずれか)です。またサブネットマスクが「255.255.255.0」、デフォルトゲートウェイが「192.168.2.1」と表記されていれば、本製品と正常に接続されています。

4 基本仕様

無線 LAN 部

規格	IEEE802.11n / IEEE802.11g / IEEE802.11b
周波数帯域	2412~2472MHz (2.4GHz帯)
チャンネル	Auto/1~13ch
伝送方式	11n : OFDM方式 11g : OFDM方式 11b : DS-SS方式
データ転送速度(理論値)	11n適用時:最大300Mbps 11g : 54/48/36/24/18/12/9/6Mbps 11b : 11/5.5/2/1Mbps
アクセス方式	インフラストラクチャ(親機)
アンテナ方式	外付アンテナ2本(送信2本、受信2本、MIMO方式)
セキュリティ	SSID(ステルス設定可)、マルチSSID、WEP64/128ビット、WPA-PSK(TKIP)、WPA2-PSK(AES)、MACアドレスフィルタリング
設定方式	WPS(ボタン搭載)

WAN/有線 LAN 部

規格	WAN : IEEE802.3ab (1000BASE-T)、IEEE802.3u (100BASE-TX)、IEEE802.3 (10BASE-T)、IEEE802.3x (Flow Control) LAN : IEEE802.3ab (1000BASE-T)、IEEE802.3u (100BASE-TX)、IEEE802.3 (10BASE-T)、IEEE802.3x (Flow Control)
コネクタ	WAN : RJ-45 × 1ポート、LAN : RJ-45 × 7ポート
Auto MDI/MDIX	対応
オートネゴシエーション	対応

ルータ、その他一般仕様

ルーティング対応 プロトコル	TCP/IP
インターネット(WAN) 接続方式	PPPoE認証接続(2セッション)、IPアドレス自動取得接続、IPアドレス固定接続
LAN接続方式設定	DHCPサーバ(有効/無効)、固定IPアドレス(手動設定)
セキュリティ	MACアドレスフィルタリング(許可/拒否)、IPアドレスフィルタリング(許可/拒否)
ローカルサーバ機能	ポートフォワーディング、仮想DMZ
ダイナミックDNS(DDNS)	クリアネット(ロジテック提供サービス)、DynDNS等
消費電力(定格)	10W
外形寸法	幅205×奥行110×高さ53mm
質量	約285g(電源ケーブルは含まず)



300Mbps対応ギガビットイーサ 8ポート無線LAN/ルータ LAN-W300N/G8
ユーザーズマニュアル

発行  ロジテック株式会社 2011年9月14日 第1版

©2011 LOGITEC CORPORATION. All rights reserved.